

令和 2 年 後 期 授業評価報告書						氏名	玉島 健二									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>○平成31年度(令和元年度)は、栄養士コース1年生の「全体的な満足度」が低かった(3.9)が、「考えさせる授業」を念頭において実施するとした。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>○上記の取組を行った結果、「全体的な満足度」は栄養士コースが4.1、ビジネス・医療秘書コースが4.6と上昇した。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>①できる限り社会に出て役立つ授業、就活に活用できる内容、生き方について考える授業を行う。 ②そのために、必要な内容や外部講師を招へいし、満足度を高める。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>①新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた時期や内容を一部変更する必要もあったが、ほぼ計画どおり実施できた。 ②「全体的な満足度」は前年度よりアップしているのので、次年度は更にアップするよう授業の内容や手法に創意工夫を加えたい。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
現代社会と女性	20S	4.2	4.1	4.2	4.3	17.7分	4.1									
現代社会と女性	20L	4.5	4.4	4.5	4.6	22.9分	4.6									
現代社会と女性	20Y	4.0	4.0	4.1	4.2	25.7分	4.1									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
データがありません																
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>①学年全員が受講する授業のため、アクティブラーニング形式の授業は難しい面がある。 ②オフィスアワーについては実施していない。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>①「現代社会と女性」の授業の目標である、「社会人として必要な素養、考え方、生き方を身に付ける」、「命と人権を考え、大切に作る心と行動力を身に付ける」、「仕事や職業について理解し、生きる力を身に付ける」の3本柱を意識した授業を心掛ける。 ②上記①を達成できるように、内容と手法を検討する。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名	太田 美代										
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
○専門職としての基礎的な力を養うため、栄養士実力認定試験のA認定60%以上を目指す。																
3. 今年度の活動内容・方法 (D0: 実行)																
○実習演習の授業において、グループや個人での自己評価の場面をつくり、認め、励ますことを通して学びに向かう主体的な態度を育成する。 ○「給食管理論」の昨年度の実績は55.7%。機会をとらえて栄養士実力認定試験の過去問にあたる、理解不十分な分野を把握して指導を行う。1年生に対しても教材研究を丁寧に行い、授業のポイントを復習できるワークシートを作成して授業にあたる。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
○今年度の栄養士実力認定試験の結果は、受験者数28名のうちA判定15名(53.6%)、B判定12名(42.9%)、C判定1名(3.6%)であった。目標のA認定60%には届かなかったものの、昨年度の44.4%と比較するとA判定が9.2ポイント増加した。平均点は52.9点で、短期大学平均を6.4ポイント、管理栄養士養成施設を含めた全国平均を1.9ポイント上回る事ができた。「給食管理論」においては、得点率70.4%と、昨年度の55.7%を14.7ポイント上回った。 ○2年生に比べて1年生の学習意欲が低い傾向にあり、成績評価も厳しい。興味がわかない→わからない→授業の満足度が低いといった悪循環に陥らないように学生の主体的な学びを引き出す工夫が必要である。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度						
				人	%	人	%	人	%	人	%	人	%			
栄養士スキルアップ特講	19S	4.6	4.6	4.6	4.4	110.0分	4.6									
食品加工学(機能論含む)	19S	4.8	4.8	4.6	4.6	52.5分	4.9									
食品加工学実習	19S	4.9	4.9	4.8	4.8	84.0分	5.0									
卒業研究	19S	4.9	4.7	4.9	4.9	107.1分	4.6									
応用栄養学実習	20S	4.4	4.2	4.4	4.5	55.9分	4.2									
栄養教育指導論実習 I	20S	4.1	4.1	4.3	4.2	102.3分	4.2									
給食経営管理論実習 I	20S	4.1	4.0	4.2	4.1	66.8分	4.0									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	19S	選択	27	76.1	2	7.4%	9	33.3%	11	40.7%	4	14.8%	1	3.7%	0	0.0%
食品加工学(機能論含む)	19S	選択	8	77.6	1	12.5%	1	12.5%	5	62.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
食品加工学実習	19S	選択	10	95.7	10	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
卒業研究	19S	必修	7	93.6	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
応用栄養学実習	20S	選択	23	85.0	4	18.2%	13	59.1%	5	22.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
栄養教育指導論実習 I	20S	選択	23	75.5	3	13.6%	4	18.2%	7	31.8%	8	36.4%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論実習 I	20S	選択	23	80.2	4	18.2%	11	50.0%	3	13.6%	4	18.2%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
○後期は実習系の授業がほとんどだったため、グループワーク、Think-Pair-Share(個で考える→隣と話し合い、→全体で共有)、学び合い、KJ法など、課題に応じて場の設定を考えた。課題にうまく取り組むことができない学生に対しては、授業時間外に個別に対応した。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
・給食経営管理論については、仕上がったときにノートの代わりとなるワークシートを作成して理解を助ける。学生に説明させる場面を作り、主体的に学習に臨む態度を養う。 ・実習系の科目については、現行の方針を継続しつつ、提出物の作成に苦慮する学生に対しては、個別指導で対応する。 ・次年度に向けては、学生の主体的な学びを引き出すためにそれぞれの授業で「場の設定」「自己決定」「自己評価」「個に応じた指導」の工夫を計画的に行い、授業改善を図る。																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	桑原 真美
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

食品衛生学実験について学生の学習意欲および理解度、全体的な満足度がやや低いため、それらの向上が課題であった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

食品衛生学実験：授業方法や内容を見直し、学生の理解度や満足度の向上を図る。
 講義科目：学生に発言の機会を設け、一方的な授業にならないよう注意する。
 卒業研究：学生の物事を発信する能力や伝える能力の向上を目的とした内容で実施する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

食品衛生学実験：実験方法や原理の説明、実験結果を考察する上でのヒントをより詳しく説明し、理解度の向上を図る。
 講義科目：昨年度に引き続き出席カードに質問を記入する欄を設け、次回の授業時に回答する方法をとった。また、以前学習したことを自分の力で思い出しながら授業に取り組んでもらう為に、教員から学生全体へ質問を投げかける機会を増やした。一方的にこちらが話すだけの授業にならないように注意した。
 卒業研究：昨年度に引き続き野菜レシピリーフレットの作成を中心に行った。卒業研究発表会では相手にわかりやすく伝えるための資料作成やプレゼンテーションに力を入れた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
--

食品衛生学実験：学生の学習意欲や理解度、全体的な満足度については昨年度と比較して特に変化はなかった。引き続き改善を行いたい。
 講義科目：1年生の講義科目については出席カードに質問を記載する学生が多く、学生が何を理解していないのかを知る材料になった。しかしながら、教科書や参考書等に記載されている簡単なことを質問する学生もおり、自ら調べることをしない学生が増えていることも感じた。次年度は、まずは自分で調べるという癖を学生に付けてもらうような指導を行いたい。
 卒業研究：野菜レシピのリーフレットについては、レシピをみて作る側の気持ちを考えて作成するよう指導した。学生は試行錯誤しながらレシピを完成させ、対象者の立場で物事を考える力を養うことが出来たと思う。卒業研究発表会については、相手に伝わるプレゼンテーションを意識するよう指導し、学生には何度も練習をしてもらった。本番では思い通りのプレゼンテーションが出来たようであり、達成感と自信に繋がったように感じた。

学生による授業評価アンケートの結果							
-------------------	--	--	--	--	--	--	--

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
栄養士スキルアップ特講	19S	4.6	4.6	4.6	4.4	110.0分	4.6		
食品加工学（機能論含む）	19S	4.8	4.8	4.6	4.6	52.5分	4.9		
食品加工学実習	19S	4.9	4.9	4.8	4.8	84.0分	5.0		
公衆栄養学	19S	4.7	4.8	4.6	4.6	73.9分	4.7		
卒業研究	19S	4.9	4.9	4.9	4.9	60.0分	4.9		
食品衛生学実験	20S	4.5	4.5	4.5	4.2	106.4分	4.5		
栄養学Ⅱ（ライフステージと栄養）	20S	4.5	4.6	4.3	4.3	65.5分	4.4		

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	19S	選択	27	76.1	2	7.4%	9	33.3%	11	40.7%	4	14.8%	1	3.7%	0	0.0%
食品加工学（機能論含む）	19S	選択	8	77.6	1	12.5%	1	12.5%	5	62.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
食品加工学実習	19S	選択	10	95.7	10	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
公衆栄養学	19S	必修	28	78.8	4	14.3%	11	39.3%	7	25.0%	6	21.4%	0	0.0%	0	0.0%
卒業研究	19S	必修	7	94.6	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
食品衛生学実験	20S	選択	23	80.7	6	27.3%	4	18.2%	9	40.9%	3	13.6%	0	0.0%	0	0.0%
栄養学Ⅱ（ライフステージと栄養）	20S	選択	23	74.3	3	13.6%	3	13.6%	8	36.4%	8	36.4%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
<p>講義科目におけるアクティブラーニングは実施していない。実験科目においては、自らが考えて実験を行いその結果を考察することで、アクティブラーニングが実施できている。 オフィスアワーについてはその時間に合わせて質問にくる学生はおらず、随時質問や相談を受け付けた。</p>
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
<p>食品衛生学実験：実験の導入部分について、日常生活や給食業務における衛生管理との関連をより深く説明し、興味関心を引き出す授業にしていく。実験内容自体の見直し、変更を視野にいれる。 講義科目：出席カードでの質問受付は継続するが、まずは自分で調べてみることを癖づける指導を行う。自主的に調べて理解していくことで理解度や成績向上を図りたい。</p>

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	桑原 倫子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

調理学実習Ⅱ…テーマとなる食材や調理法ごとに料理を作らせたので、数多くの料理や調理方法について教えることができた。しかし、1回の実習で行うには作らせる料理が多い回数もあったので、学生に負担がかかった。
 調理学実習Ⅲ…学生が知らないであろう、様々な食材や各国料理を作らせたので、新しい知識を増やせたのではないかと考える。献立としては量が多かったり少なかったりした料理があった。
 子どもの食と栄養…食育指導はグループで行わせたため、グループ内で主体的に動く学生とそうでない学生の差が出て、一部学生にかかる負担が大きかった。外部講師による食物アレルギーに関する講演はとても勉強になり、来年度も実施したい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

調理学実習Ⅱ…1回の授業で作らせる料理や教える調理技術をより厳選し、内容の濃い実習を行う。
 調理学実習Ⅲ…様々な食材や料理にふれさせ、料理の幅を広げる。
 子どもの食と栄養…食育指導実習では1グループの数を減らし、学生一人一人により深く考えさせる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

調理実習Ⅱ…1回の授業で作らせる料理や教える調理技術を厳選したので、昨年よりは学生にゆとりができた。
 調理実習Ⅲ…学生が見たことや使ったことのない食材、作ったことがないような料理の実習を行った。また、学生が興味を持ちそうな流行の料理の実習も行った。
 子どもの食と栄養…コロナ禍により先延ばしにしていた調理実習を、感染症対策を十分に考慮し実践できる内容に見直し実行した。学生にとって特に重要と思われる食物アレルギーについて、時間を多くとって授業を行い、専門の外部講師を招いて講演会も開催した。
 食品加工学・食品加工学実習…今年度から新しく担当した科目であったが、学生に興味を持ってもらえそうな内容を考え実習をおこなった。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

調理学実習Ⅱ…全体でゆっくりペースで授業を進めたため、調理技術の高い学生には、やや物足りない内容になっていたことが懸念される。
 調理学実習Ⅲ…学生の満足度や理解度が概ね高い結果となったので、この方針で授業を進める。
 子どもの食と栄養…ただ単調に講義を行うのではなく、調理実習・食物アレルギー講演会と、授業に変化をつけつつ行った。学生の全体の満足度は前年とあまり変化がなかったが、自由記述による回答をみると特に調理実習の満足度が高かったため、次年度も内容を考慮して実行したい。
 食品加工学・食品加工学実習…学生の満足度も成績も高かったため、次年度もこの方針で授業を進める。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
栄養士スキルアップ特講	19S	4.6	4.6	4.6	4.4	110.0分	4.6		
食品加工学 (機能論含む)	19S	4.8	4.8	4.6	4.6	52.5分	4.9		
食品加工学実習	19S	4.9	4.9	4.8	4.8	84.0分	5.0		
調理学実習Ⅲ	19S	4.8	4.8	4.8	4.8	72.9分	4.8		
卒業研究	19S	4.6	4.6	4.7	4.7	115.7分	4.6		
子どもの食と栄養	19Y	4.2	4.1	4.2	4.1	24.2分	4.1		
調理学実習Ⅱ	20S	4.7	4.7	4.5	4.5	65.5分	4.5		

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	19S	選択	27	76.1	2	7.4%	9	33.3%	11	40.7%	4	14.8%	1	3.7%	0	0.0%
食品加工学 (機能論含む)	19S	選択	8	77.6	1	12.5%	1	12.5%	5	62.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
食品加工学実習	19S	選択	10	95.7	10	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
調理学実習Ⅲ	19S	選択	28	84.1	6	21.4%	16	57.1%	6	21.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
卒業研究	19S	必修	7	95.7	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの食と栄養	19Y	選択	99	73.3	1	1.0%	18	18.2%	51	51.5%	29	29.3%	0	0.0%	0	0.0%
調理学実習Ⅱ	20S	選択	23	84.0	4	18.2%	13	59.1%	5	22.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

調理学実習Ⅱ、Ⅲ…授業中モニターを使い、調理の様子を学生に見せながら進めている。手元や細かい動作がわかるよう、ズーム機能も活用している。少数ながら授業外で質問に訪れる学生もいた。
子どもの食と栄養…授業中スライドを用い説明したり、動画を見せたりした。コロナ禍でも行える調理実習内容を考え、実践した。試験前に集中して、質問をしに訪れていた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

調理実習Ⅱ…授業で作らせる料理や教える調理技術を厳選しつつ、余裕のある学生にも気を配り、難易度の高い内容の学びも実践させる。
調理実習Ⅲ…基本をふまえつつも、珍しい食材や料理での実習も行い、常にアンテナを張って流行の料理の情報収集も行う。
子どもの食と栄養…講義だけでなく、新型コロナウイルス感染症対策を十分に考慮し、実践できる内容の実習を行う。食物アレルギーについて深く学ばせる。

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	古賀 克彦
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

① 学外実習に関しては昨年度に比べ実習先の評価が向上した。(学外実習総合演習)。来年度は更に評価が向上するように心がけていきたい。

② 卒業研究は円滑に実施できたと思われる。来年度も同様に実施していきたい。

③ 臨床栄養学①に関しては授業中に試験に出すと予告・解説した問題すら解けない学生が多く存在した。完全に勉強不足なので、学生のやる気を引き出すような指導方法を工夫していきたい。

④ 献立作成に関しては、昨年度から授業カリキュラムを見直し、献立の最小構成単位で基本となる「料理」のレシピ作成から詳しく教えたが、例年通り献立作成を苦手とするものが一定数存在している。基本的な計算を苦手としているものもあり、来年度は各個人が苦手としている内容に個別対応を行っていく必要があると思われる。(栄養教育指導論Ⅰ)

⑤ 栄養教育指導論Ⅰに関しては必要な内容は理化視していると思われる。今後は栄養士実力認定試験でよい成績をとることが出来るように指導を行ってきたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

① アクティブラーニングの導入(すべての科目において)。

② 栄養士実力認定試験成績向上(臨床栄養学、栄養教育指導論講義)。

③ 学外実習の評価向上。

④ 卒業研究の満足度向上。

⑤ 食品加工学および食品加工学実習の円滑な実施。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

① 講義科目においてアクティブラーニングの導入。

② 授業中に栄養士実力認定試験頻出分野の詳細な説明の実施及び、定期試験への栄養士実力認定試験形式の問題の導入。

③ 学外実習総合演習での指導の強化。

④ 各学生に応じた対応や面談の実施。

⑤ 食品加工学(講義)および食品加工学実習を円滑に実施するために各教員及び助手との連携強化。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

① 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学生間で取り組むアクティブラーニングの導入は出来なかった。

② 試験頻出分野の詳細な説明の実施及び、定期試験への実力認定試験形式の問題の導入を昨年度より多く行ったが、該当科目の実力認定試験の結果は昨年度と同程度で、改善は見られなかった。

③ 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で学外実習Ⅰは中止となった。実施した学外実習Ⅱにおける実習先の評価は、昨年度より良好であった。

④ 卒業研究の満足度は4.9(5点満点)と高い結果となった。

⑤ 食品加工学(講義)および食品加工学実習は受講学生の満足度も高く、円滑に実施できたと思われる。また教員間のコミュニケーションは問題なかったと思われる。

学生による授業評価アンケートの結果							
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養士スキルアップ特講	19S	4.6	4.6	4.6	4.4	110.0分	4.6
食品加工学(機能論含む)	19S	4.8	4.8	4.6	4.6	52.5分	4.9
食品加工学実習	19S	4.9	4.9	4.8	4.8	84.0分	5.0
学外実習総合演習	19S	4.8	4.9	4.8	4.7	107.1分	4.5
学外実習Ⅰ	19S	4.6	4.6	4.7	4.7	99.6分	4.6
学外実習Ⅱ	19S	4.7	4.7	4.8	4.7	101.8分	4.7
卒業研究	19S	4.9	4.9	4.9	4.9	60.0分	4.9
臨床栄養学Ⅰ(病態の理論)	20S	4.1	4.2	4.0	4.2	55.9分	4.2
栄養教育指導論Ⅱ	20S	4.4	4.3	4.2	4.2	46.4分	4.2

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	19S	選択	27	76.1	2	7.4%	9	33.3%	11	40.7%	4	14.8%	1	3.7%	0	0.0%
食品加工学（機能論含む）	19S	選択	8	77.6	1	12.5%	1	12.5%	5	62.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
食品加工学実習	19S	選択	10	95.7	10	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	19S	選択	28	86.0	13	46.4%	10	35.7%	4	14.3%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅰ	19S	選択	28	83.3	1	3.6%	22	78.6%	5	17.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅱ	19S	選択	28	86.1	12	42.9%	13	46.4%	3	10.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
卒業研究	19S	必修	7	94.3	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
臨床栄養学Ⅰ（病態の理論）	20S	必修	23	70.1	5	22.7%	2	9.1%	1	4.5%	13	59.1%	1	4.5%	0	0.0%
栄養教育指導論Ⅱ	20S	選択	23	79.8	5	22.7%	7	31.8%	4	18.2%	6	27.3%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>アクティブラーニングに関しては、後期は実習科目が無かったため実施できなかった。来年度以降は講義科目においてアクティブラーニング科目を導入していきたい。 またオフィスアワーに関しては基本的に開いている時間であれば専らでも訪問してよい形式で実施した。質問に関しては2年生は学外実習（実習先からの課題対応含む）や定期試験についての相談が多く、1年生に関しては献立作成や定期試験についての相談が多かった。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）																
<p>① アクティブラーニングの導入（すべての科目において）。 ② 栄養士実力認定試験成績向上（臨床栄養学、栄養教育指導論講義）。 ③ 学外実習の評価向上。 ④ 卒業研究の満足度向上。 ⑤ 食品加工学実習の円滑な実施。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	江頭 万里子											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>(1) 授業評価アンケートの結果は4.0~4.5であり、担当する全ての科目について、大方問題はなかったと思われる。</p> <p>(2) 「マナー学」においては、授業評価の平均は4.4と高い評価を受けたが、成績は、C評価が18人(17.5%)と昨年に比べ、人数・割合が増加していた。評価の低い学生は、欠席日数が多い、指定された課題をしていない、提出しない等の共通点が見られた。</p> <p>(3) 当日担当秘書は、全員真剣に取り組み、授業内容実践の場として実践の場が少ない学生にとって非常に有効だったと思われる。</p> <p>(4) アクティブラーニングは活発に行われ、討議内容も充実しており授業内容の定着に一定の効果があったものと思われる。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1) 「ゼミナール」においては、主体性、コミュニケーション力、チームワーク力、責任感の育成に力を注ぐ。特に、報告・連絡・相談の徹底の呼びかけを実施する。</p> <p>(2) 「秘書実務1」においては、授業内容の実践の場として当日担当秘書を継続実施する。</p> <p>(3) 「マナー」学においては、教員が示した基本マナー5項目のより一層の定着を図るため、5項目を同時に目標として実施し、1か月毎に振り返りを行わせる。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>(1) ゼミナールにおいては、学生の主体的な活動を目指し、リーダーを中心とした活動が行えるように連絡システムを整える。</p> <p>(2) 秘書実務1においては、毎回の授業時に2人ずつ教員の秘書を担当する。(当日担当秘書の継続実施)</p> <p>(3) マナー学においては、次週に使用する資料を事前に配布し、予習資料とする。授業後の感想に質問があれば、次回の授業で全員に質問と回答を伝える。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>(1) 授業評価アンケートの結果は、ゼミナールと秘書実務1は4.3~4.9であり、大方問題はなかったと思われる。マナー学は本年度は、授業法を変え、教科書を使用せず、穴埋めの授業資料を配布し、パワーポイントで授業を行った。授業評価アンケートに話すスピードが速いという意見が多く、穴埋めをするのが難しかった可能性が高い。教員の教え方も昨年度の4.4から0.5ポイント低下し3.9点だった。授業法を再検討する。</p> <p>(2) ゼミナールにおいては、コロナ感染症の影響で、当初の計画どおりに進めることができなかったが、状況に合わせて活動を変更して活動を終えることができた。問題解決力を磨くことができたのではないかと考える。リーダー中心とした活動を目指して連絡をリーダーを通して行ったが、リーダーが負担感を感じる結果となった。</p> <p>(3) 学生の当日担当秘書の取り組みは、真剣であり、秘書の疑似体験の場として有効に機能したものとする。</p> <p>(4) マナー学の感想に書かれた質問には、全て、次の授業時に回答し真摯に対応した。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
ゼミナール	19L	4.6	4.3	4.8	4.7	43.3分	4.6									
秘書実務1	20L	4.8	4.9	4.7	4.8	72.3分	4.6									
マナー学	20Y	4.0	3.9	4.1	3.9	43.4分	3.9									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ゼミナール	19L	必修	9	85.0	2	22.2%	7	77.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
秘書実務1	20L	必修	23	86.7	9	39.1%	9	39.1%	5	21.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
マナー学	20Y	必修	92	83.8	25	27.2%	40	43.5%	19	20.7%	8	8.7%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>アクティブラーニングは、コロナ感染に配慮して、グループ討議等は避け、各自考えて、教室前のホワイトボードに意見を書くなど工夫をして実施した。</p> <p>オフィスアワーは、随時訪問可としていたので、時間に関係なく検定に関する質問等の訪問があった。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1) 秘書実務1においては、授業内容の定着を図るため、当日担当秘書を継続実施する。</p> <p>(2) ゼミナールにおいては、リーダーが負担を感じないように注意しながら、学生中心の活動を支援し、ゼミ内の報告・連絡・相談を促す。</p> <p>(3) マナー学は、穴埋めの授業資料を止め、配布資料を参考に考える問を課題として与え、授業改善を図る。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	濱口 なぎさ
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1) 演習科目については、プレゼンテーションやグループワークなど、学生が意見を発表する場を多く設ける。「ビジネス文書作成2」の集大成として、1年次に日商PC検定(文書作成)3級に全員合格できるような指導を行う。学生のレベルによって検定試験への挑戦をサポートし、上位級への合格を目指す。

2) 講義科目については、学生の理解度の確認やコミュニケーションを図るため、具体的な方法を検討し実行する。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1) 1年生の演習科目については、検定対策に係る科目は課題実施後に自己分析シートを提出させる。2年生については、「オフィス情報演習」にてプレゼンテーションやグループワークを実施する。また日商PC検定の上位級やMOS試験の受験意欲を喚起するよう、授業の中で随時働きかける。

2) 講義科目については、単元ごとに要点を振り返る時間を設け、知識の定着を図る。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1) 1年生の「ビジネス文書作成2」では、課題実施後に自己分析シートの提出を実施した。2年生の「オフィス情報演習」では、グループワークとプレゼンテーションを実施する課題に取り組んだ。日商PC検定(文書作成)2級の受験を希望した3名の学生に対して個別指導を行った。

2) 「医療管理学」については、医療保険、医療法等学生にとってなじみがない用語が多く里香氏が難しいと思われる内容について、振り返りのプリントを作成し、理解の定着を図った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1) 演習科目については、学生による授業評価アンケートの結果で、多くの項目で4.5以上となっており高い満足度を示している。また、成績分布においてもB、Cの学生が数名いる程度ということから、授業の方法や内容については今年度の実施内容で良かったと考えている。

検定試験については、日商PC検定(文書作成)3級を1年生が2月に3名しか受験しなかったが、2年生は医療事務資格に必要な学生は全員日商PC検定(文書作成)3級に合格することができている。同検定の2級に挑戦した学生が3名いたが、残念ながら合格者が出なかった。問題文の読解力や応用力が及ばなかったと考えられ、次年度の指導内容について再考が必要と感じている。

2) 講義科目の「医療管理学」については、振り返りのプリントを上手く活用できたことと、ノートにまとめるよう指示をしたことで、理解の定着が進んだと感じている。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
オフィス情報演習	19L	4.6	4.6	4.6	4.5	53.6分	4.6		
データベース演習	19L	4.5	4.5	4.6	4.4	38.6分	4.5		
病院実習	19L	4.5	4.5	4.5	4.5	165.0分	4.5		
ゼミナール	19L	4.7	4.7	5.0	4.8	95.0分	4.8		
ビジネス文書作成2	20L	4.8	4.8	4.7	4.7	48.3分	4.7		
医療管理学	20L	4.7	4.8	4.7	4.5	62.7分	4.7		
プレゼミナール	20L	4.4	4.4	4.5	4.5	50.5分	4.4		

科目名	対象学生	必修 選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
オフィス情報演習	19L	必修	29	88.5	18	64.3%	6	21.4%	3	10.7%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
データベース演習	19L	必修	29	88.8	19	67.9%	4	14.3%	4	14.3%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
病院実習	19L	選択	4	90.0	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	19L	必修	6	88.3	4	66.7%	2	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネス文書作成2	20L	必修	23	85.1	5	21.7%	16	69.6%	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療管理学	20L	選択	22	85.7	10	45.5%	7	31.8%	3	13.6%	2	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	20L	必修	23	91.1	18	78.3%	5	21.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
主に2年生の科目では学生によるプレゼンテーションを行った。特にゼミナールでは、毎回グループディスカッションを行っている。また、オフィスアワーでは欠席した学生のフォローや面接練習、個人的な相談などの対応を行った。
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
1) 演習科目においても、学生が意見を示す場を多く設ける。1年次に日商PC検定（文書作成）3級に合格できるよう「ビジネス文書作成2」にて指導を行う。学生のレベルによって検定試験への挑戦をサポートし、特に上位級への合格者を出せるような指導法を検討する。 2) 講義科目においては、学生の理解度の確認やコミュニケーションを図るため、リアクションペーパーを活用する。

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名		武藤 玲路										
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>1) 前年度の臨床心理学とビジネスデータ活用2の授業では、学生の基礎学力や応用力、学習意欲に二極分化の傾向が見られたため、今年度は、授業の構成や教材、教授法や課題、自由研究の方法を工夫し、個々の学生の学習意欲と問題解決能力の育成に努めたい。</p> <p>2) 可能な限りアクティブラーニングの教授法を取り入れた授業を実施し、主体性や問題解決能力、人間関係力の育成に努めたい。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>1) 学生に質問をしたり、自由研究で発表をさせたりして、アクティブラーニングの教授法を必ず取り入れるようにする。</p> <p>2) 授業中の学生の発言や受講態度をその場で明確に評価し、学習意欲や問題解決能力の育成に努めるようにする。</p> <p>具体的には、臨床心理学の授業の最後に、毎回授業の専門用語に関連する事例や感想を記述させるようにする。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>1) 今年度の臨床心理学では、授業の前半はテキストとオリジナルのプリント教材を用いて、テーマに関する用語や理論を説明し、授業の後半はビデオ教材を上映してテーマの理解を深めるという流れで授業を構成した。また、教員の質問に対する学生の発言をボーナス得点として成績評価に加点し、学生の能動的な学習意欲の促進を図った。さらに、授業の最後に毎回質問や感想のレポートを提出させたり、演習形式の授業や学生の研究発表も授業計画に取り入れられたりした。</p> <p>2) ビジネスデータ活用2では、授業の前半はテキストに沿ってエクセルの機能と操作方法を説明し、授業の後半は独力で練習問題に取り組むという流れで授業を構成した。また、定期試験の数週間前には、オリジナルの応用問題を出題することで、これまでの授業内容を総合的に理解し、正確さと迅速さと問題解決能力の育成に努めた。さらに、自分の理解度や弱点のフィードバックを行い、学習意欲の促進を図った。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>1) 学生による授業評価アンケートの結果、講義科目の臨床心理学と演習科目のビジネスデータ活用2を含む主要な科目において、①学生の学習意欲、②授業の内容やレベル、③授業目標の到達度、④教員の教え方、⑤全体的な満足度は、すべて4.2以上の高い自己評価である。特に臨床心理学とビジネスデータ活用2はどの項目も4.6以上の非常に高い評価である。インターンシップ2の評価が低い理由は、コロナ禍で学外実習ができずレポート提出に内容を変更したためだと思われる。</p> <p>2) また、授業担当教員による成績評価の結果では、臨床心理学とビジネスデータ活用2は、7割以上の学生がS・Aランクの高い成績で学習成果を上げている。他の科目もインターンシップ2以外は4.2以上の高い評価である。インターンシップ2が低い理由は上記と同様である。</p> <p>3) さらに、成績評価の平均点は、臨床心理学が92.7点、ビジネスデータ活用2が85.0点で非常に高い。他の科目もインターンシップ2を除いて、すべて85.0点以上である。今後も引き続き、理解力、集中力、学習意欲の高揚を目指して、より効果的な教授法や個別支援について検討していきたい。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
								19L	4.6	4.7	4.7	4.6	50.6分	4.6		
キャリアアップセミナー2	19L	4.5	4.5	4.5	4.5	31.1分	4.4									
病院実習	19L	4.5	4.5	4.5	4.5	165.0分	4.5									
インターンシップ2	19L	4.2	4.2	4.7	4.3	80.0分	4.2									
ゼミナール	19L	4.2	4.2	4.2	4.2	72.0分	4.2									
ビジネスデータ活用2	20L	4.7	4.6	4.7	4.6	41.7分	4.6									
キャリアアップセミナー1	20L	4.6	4.4	4.7	4.4	40.0分	4.3									
プレゼミナール	20L	4.4	4.4	4.5	4.5	50.5分	4.4									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
臨床心理学	19L	選択	17	92.7	10	62.5%	6	37.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー2	19L	必修	29	89.6	25	89.3%	3	10.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
病院実習	19L	選択	4	90.0	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ2	19L	選択	6	61.1	6	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	19L	必修	5	92.0	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネスデータ活用2	20L	必修	23	85.7	13	56.5%	5	21.7%	2	8.7%	3	13.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー1	20L	必修	23	86.1	16	69.6%	3	13.0%	2	8.7%	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	20L	必修	23	91.1	18	78.3%	5	21.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
1) アクティブラーニングの手法は後期のほぼ全授業で取り入れており、授業の最終回あたりで、自由研究の課題の発表会を実施している。 2) オフィスアワーに訪問する学生はいないが、それ以外の時間にパソコンの授業に関する質問が週に数件あるため、パソコンを用いて説明している。
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT:改善、PLAN:計画)
1) 今後はビジネスデータ活用2の表計算ソフト・エクセルの到達目標と教授法を改善・工夫し、学習成果の到達度と学習支援の満足度の向上に努めたい。 2) 臨床心理学の授業の最後に毎回意見や感想のレポートを提出させたことは、学生と教員のフィードバックに大変有効であった。よって、次年度も継続して実施していきたい。 3) できるだけアクティブラーニングの手法を取り入れ、エビデンスに基づく論理的思考力と問題解決能力の有用性を実感させ、学習意欲の促進を重視した教授法と評価法を実施していきたい。

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名	森 弘行										
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<ul style="list-style-type: none"> ・ 数的理解、統計処理ともアンケート結果は前年度と比べ改善傾向にはあるが、学生一人一人を見てみると、成績の差は大きく、基本が理解できていない学生層が存在する。 ・ ウェブデザインでは、ファイルやフォルダの基本的な仕組みが理解できていない学生がおり、同じ操作を何度も繰り返し、授業に遅れるという悪循環に陥っている学生が見られた。また、欠席が多く、授業についてこれず、プレゼンテーションの結果も大きな差になった。 																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<ul style="list-style-type: none"> ・ 数的理解、統計処理については地道に改善を行うとともに、学生による授業を取り入れる。 ・ ウェブデザインでは、ファイルやフォルダの関係が重要となるため、改めて指導を行うとともに、欠席者の遅れへの対応を考慮する。 																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<ul style="list-style-type: none"> ・ ノートを書く習慣が根付いていないので、重点ポイントをノートに記録、教科書にマークなどの指示を行う。 ・ 操作上の注意点を必要に応じて繰り返す。 																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験前を除くと学習時間が極めて少ないと感じられる。 ・ 定期試験をノート、教科書持ち込み可としても教科書の内容を読み取ることができない学生が増加している。 																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
							満足度	満足度								
ウェブデザイン	19L	4.1	3.9	4.3	3.8	65.4分	3.9									
統計処理	19L	3.3	3.3	3.9	2.7	38.6分	3.1									
病院実習	19L	4.5	4.5	4.5	4.5	165.0分	4.5									
ゼミナール	19L	4.5	4.4	4.8	4.8	60.0分	4.6									
数的理解	20L	4.0	3.9	4.3	3.8	88.6分	3.5									
情報処理論	20L	4.0	3.0	4.0	4.0	90.0分	4.0									
医療情報学	20L	4.3	4.2	4.3	3.9	32.5分	4.3									
プレゼミナール	20L	4.4	4.4	4.5	4.5	50.5分	4.4									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ウェブデザイン	19L	必修	29	83.3	5	17.9%	15	53.6%	7	25.0%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
統計処理	19L	選択	15	68.2	0	0.0%	2	14.3%	4	28.6%	8	57.1%	0	0.0%	0	0.0%
病院実習	19L	選択	4	90.0	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	19L	必修	8	83.1	2	25.0%	6	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
数的理解	20L	必修	23	65.9	1	4.3%	2	8.7%	4	17.4%	15	65.2%	1	4.3%	0	0.0%
情報処理論	20L	選択	1	80.0	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療情報学	20L	選択	12	70.3	1	8.3%	2	16.7%	2	16.7%	7	58.3%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	20L	必修	23	91.1	18	78.3%	5	21.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<ul style="list-style-type: none"> ・ ウェブデザイン、情報処理論、ゼミナールは実技や発表を伴った授業を実施。 ・ 定期試験前を除けばオフィスアワーの利用は少ない。 																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<ul style="list-style-type: none"> ・ 口頭での指示はほとんど効果がないように思われるので、プリントやノートの作成をさらに指導する。 																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名		荒木 正平									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>1. 今年度アンケートの結果について、大きな問題はなかったものの、より抽象度の高い授業（特に社会福祉）への取り組みについては、積極的な学生とそうでない学生の差がみられたように思う。この点、より意欲を引き出せる授業構成を意識して対応を検討していきたい。</p> <p>2. 実習さらには卒業の実践にすべての科目が繋がっているということを学生に意識させることで、学生それぞれの苦手科目や苦手なテーマへの意欲的な取り組みを促すことが今後の課題となる。事例に関する資料やA・L手法の活用の仕方なども再検討したい。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上 学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。事例紹介や演習・ロールプレイなどのアクティブラーニングの手法をさらに効果的に盛り込み、より意欲的・主体的な取り組みを促す。特に、抽象度の高い科目において学生ごとの取り組み姿勢の差を少なくし、全体のレベルを上げる方法を検討する。</p> <p>2. 実習指導内容の充実 ①各授業における、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、教員間の協力・情報共有体制の強化、②学生ごとに異なる能力・意欲に対応できるような個別支援・指導の実施。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>1. 講義形式の科目（社会福祉、子ども家庭支援論）では、教科書を中心に知識の定着を図りつつ、学生が興味を持って取り組めるような資料や、DVDなどの視聴覚教材を効果的に活用した。演習系の授業では、学生がより主体的・能動的に考えるためのグループ活動・資料作成からの発表なども取り入れた。各授業においては、レポート課題も活用した。</p> <p>2. 授業を実施するにあたっては実習における実践や就業後の実践も見据えて、授業内容・構成を工夫した。また、学生毎の課題や理解度に対応するため、個別支援・少人数指導も取り入れるなどの工夫を行った。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>1. 今年度アンケートの結果についても大きな問題はなかったが、講義系の授業（特に子ども家庭支援論）への取り組みについては、学生間で意欲の差がみられたように思う。この点、保育の仕事との関連をより強く意識できるような授業構成について検討を進めたい。</p> <p>2. 授業や実習はすべて卒業の実践に繋がっているという意識を学生に持たせることで、真奈美の意欲を高めることが重要となる。学生ごとの関心・意欲を活かし、特性にも配慮した授業構成が今後の課題となる。視聴覚資料やA・L手法の活用のほか、講義自体の内容構成についても、より保育とのつながりを意識できる事例を取り上げるなど、さらに工夫していきたい。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度							
				人	%	人	%		人	%	人	%				
社会福祉	19Y	4.4	4.5	4.3	4.3	36.0分	4.4									
卒業研究	19Y	4.9	4.9	4.8	4.9	85.0分	4.8									
保育実習Ⅰ	19Y	4.6	4.6	4.6	4.5	79.8分	4.5									
保育実習Ⅱ	19Y	4.6	4.6	4.6	4.6	84.4分	4.6									
子ども家庭支援論	20Y	4.2	4.3	4.1	4.1	51.1分	4.2									
社会的養護内容	20Y	4.4	4.4	4.4	4.3	67.5分	4.4									
保育実習指導Ⅰ	20Y	4.5	4.4	4.5	4.5	48.2分	4.5									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
社会福祉	19Y	必修	100	86.9	41	41.0%	47	47.0%	9	9.0%	3	3.0%	0	0.0%	0	0.0%
卒業研究	19Y	必修	12	88.7	5	41.7%	7	58.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	19Y	選択	98	82.1	18	18.4%	41	41.8%	33	33.7%	6	6.1%	0	0.0%	0	0.0%
子ども家庭支援論	20Y	選択	92	84.0	29	31.5%	37	40.2%	15	16.3%	11	12.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会的養護内容	20Y	選択	92	87.8	42	45.7%	45	48.9%	5	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

<p>5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況</p>
<p>〈アクティブラーニングについて〉 演習系の授業を中心に取り入れることで、学生の意欲的な取り組みにつなげることができた。ただし、講義系の授業については限界もあるが、授業構成について引き続き検討しながら実践につなげていきたい。</p> <p>〈オフィスアワーについて〉 効果的に活用できた。オフィスアワーをきっかけに学生が訪室しやすくなり、よりスムーズな学生支援の実施につなげられた。時間設定があることで、より相談しやすい状況になっていると考える。</p>
<p>6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）</p>
<p>1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上 学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。グループ活動や発表などの演習含め、アクティブラーニングの手法を活かし、学生のより意欲的・主体的な取り組みを促す。講義系の科目においては、学生ごとの取り組む姿勢や関心意欲の差を少なくし、全体のレベルを上げるため、視聴覚教材の活用だけでなく、講義内での事例紹介の取り入れも検討する。</p> <p>2. 実習指導内容の充実と連携強化 ①各授業における、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、教員間の協力・情報共有体制の強化、学外の実習協力者との指導に関する連携の強化、②学生の関心・意欲や個別に異なる課題にこたえる個別支援・指導の実施。</p>

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	蛭原 正貴											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>前年度の授業評価は、オムニバス形式の授業を除き、担当した授業については4.5以上の授業評価を得られていたことから、概ね満足のいく結果であったといえる。成績分布に関しては、「子どもと健康(体育)」の偏りが見られたため、試験方法等の見直しが必要であると考えられた。今年度の課題としては、今年度の状態を維持しつつ、授業外学習時間を活用した学修内容の検討を図ることであった。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>実技科目における技能及び講義科目における知識習得に関して、スモールステップによる向上を図る。具体的には、小テストを細かく行い、習得状況の確認を行いながら授業を進める。また、授業外時間にも着目し、授業外にも学修に取り組めるよう予習、復習の実施を促す。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>期末試験のみならず、各回の授業において小テストを複数回行い、実技科目における技能及び講義科目における知識の確認を行う。同時に、予習、復習への取り組みを具体的に示し、授業外学修への取り組みを促す。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>今年度は、各回の授業において小テストを実施する予定であったが、授業準備の時間が足りず実施することができなかった。実技における技能テストにおいては、毎回とまではいかないものの、定期的に行うことができた。授業外学修時間については、昨年度と同様の時期で比べてみると、単独担当の科目で学修時間を延ばすことができた。新型コロナウイルスの影響で、外出が自粛されていることも影響しているかもしれないが、今後も授業外学修時間の改善を図りたい。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
卒業研究	19Y	4.8	4.8	4.8	4.7	66.0分	4.7									
保育実習Ⅰ	19Y	4.6	4.6	4.6	4.5	79.8分	4.5									
領域「健康」の指導法	20Y	4.3	4.4	4.2	4.1	42.1分	4.2									
運動遊びの実践(指導法)	20Y	4.5	4.5	4.5	4.5	34.9分	4.5									
保育実習指導Ⅰ	20Y	4.5	4.4	4.5	4.5	48.2分	4.5									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
卒業研究	19Y	必修	10	92.6	9	90.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
領域「健康」の指導法	20Y	必修	92	86.8	40	43.5%	36	39.1%	11	12.0%	5	5.4%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>アクティブラーニングに関しては、それぞれの授業で1~2回取り入れることができた。オフィスアワーに関しては随時対応した。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>次年度は授業外学修時間の向上に引き続き取り組み、今年度実施できなかった小テストを活用し、スモールステップで知識、技能を自向上させていくことが必要と考える。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	織田 芳人
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

①卒業研究
 班別での協同的学修・作業において、パソコン習熟度による不和は生じなかった。しかし意欲の低い学生だけで構成された班は、他の班に比べると、内容の点で劣る結果になった。卒研の配属を決める最初の段階で、学生本人の希望だけでなく、組合せもある程度、考慮してもらう必要があると考えられる。

②情報科学
 例年と同じく、受講生全体としてパソコン操作の習熟度に大きな差があり、一方、ヴィジュアル・プログラミングの体験者も増えてくると推測された。自宅で作れるパソコンがある受講生も4分の1程度と推測されるので、学生のほぼ全員が所有しているスマートフォンの活用を検討したい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①卒業研究
 班別での協同的学修・作業において、パソコン習熟度による不和が生じないように進めたい。

②情報科学
 毎年、受講生全体としてパソコン操作の習熟度に大きな差がある。キーボード操作の苦手な学生は、その多くが自宅等でパソコンを自由に使用できる環境にないと思われる。そこで、学生のほぼ全員が所有しているスマートフォンを長文の入力に活用することを試みる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①卒業研究
 3班(各班3名)に分かれて活動。収集した図書・文献に基づいて、玩具に関するテーマを班別に設定してアンケート調査を実施し、卒業研究報告としてまとめた。卒業研究発表会では3班の研究内容を1つのスライドにまとめて発表した。

②情報科学
 前期のYouTubeによる遠隔授業の経験をもとに、授業の導入部分に動画を利用して、対面授業でできるだけ個人的に指導できるようにした。MS Wordで「園だより」を作成する際、便りの本文をスマートフォンで予め書いて、各学生に割り当てられた大学のメールアドレスへ添付ファイルで送り、それをWordに貼り付けることを試みた。MS PowerPointによるプレゼンテーションでは施設実習の体験あるいは計画の「紹介スライド」を作成して発表した。ヴィジュアル・プログラミング教育の試みとして、知育玩具体験及び「プログラミン」によるヴィジュアル・プログラミング体験を試みた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①卒業研究
 班別での協同的学修・作業では、パソコン習熟度の差は見られたが、どの班においても不和は生じなかった。各班がアンケート調査を実習前または実習終了直後に実施したため、スムーズに調査結果をまとめることができ、卒業研究報告の執筆も順調に進んだ。卒業研究発表のためのスライド作成と事前練習、当日の発表も順調だった。課題としては、附属幼稚園等での実践を組み入れることができれば、いっそう研究を充実させることができると思われる。

②情報科学
 例年と同じく、受講生全体としてキーボード操作を含むパソコン操作の習熟度に大きな差があった。授業の導入に動画を利用したことにより、結果的に授業内容を整理し増やすことができた。しかし、導入部分を視聴しなかった受講生や、毎週配布した資料を持参しなかった受講生への対応は、そもそも授業の前提が失われているので、かえって難しくなった。また、Wordにおけるスマートフォン利用の長文貼り付けも、パソコンの苦手な学生ほどスマートフォンを利用しない(事前に準備しない)ので、どの程度有効であったかは不明。キーボード操作を含むパソコン操作の習熟度のきわめて大きな差への対処が課題である。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度						
			4.6	4.6	4.8	4.7	73.3分	4.4								
卒業研究	19Y	4.6	4.6	4.8	4.7	73.3分	4.4									
情報科学	20Y	4.0	3.8	4.2	3.9	36.7分	3.8									
領域「表現」の指導法	20Y	4.3	4.4	4.3	4.2	84.7分	4.3									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
卒業研究	19Y	必修	9	86.9	3	33.3%	6	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報科学	20Y	選択必修	92	77.2	6	6.5%	31	33.7%	38	41.3%	17	18.5%	0	0.0%	0	0.0%
領域「表現」の指導法	20Y	必修	92	79.8	17	18.5%	35	38.0%	24	26.1%	16	17.4%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
<p>①卒業研究 適宜、助言をすることで、各班が研究テーマを設定して、アンケート調査を行い、調査結果を考察して、結論を導くことができた。</p> <p>②情報科学 各自PowerPointでスライドを作成して、クラス単位で一人ずつスライドを使いながら発表することができた。</p> <p>学生はオフィスアワーを特に意識せずに、随時、研究室を訪ねてきていたようである。</p>
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
<p>①ゼミナール 次年度から週1コマになるので、附属幼稚園等での実践を重視して、保育者としての意識をいっそう高めることができるような協同的学修を探求したい。</p> <p>②情報科学 受講生全体として、例年通り、キーボード操作を含むパソコン操作の習熟度に大きな差があると考えられるので、スマホにプリインストールされている文書やスライドの作成アプリを活用すること、スマートフォンを利用した長文入力及びWordへの貼り付けも活用して、キーボード操作を含むパソコン操作の習熟度の差をできるだけ縮小したい。</p>

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	島田 幸一郎
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1. 特別ニーズ教育 (通年)
 前期は、新型コロナウイルス感染防止のために講義中心の授業となった。プリント作成等を工夫し、アクティブラーニングの維持に努めたが十分に機能できなかった。

2. 保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ (通年)
 前期、児童養護施設就職希望の1名が受講したが、新型コロナウイルス感染防止の影響により実習自体を取り止めざるを得なかった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1. 特別ニーズ教育 (通年)
 前期の反省を活かし、視聴教材の有効活用やプリントの記入内容を改善して主体的活動の維持に努める。

2. 保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ (通年)
 前期と同様実習は出来ないが、必要に応じて助言等を行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (D0: 実行)

1. 特別ニーズ教育 (通年)
 ・視聴教材を精選すると共に授業後提出用のプリントの記述内容を工夫し、課題意識の涵養に努める。
 ・新型コロナウイルス感染防止に留意する

2. 保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ (通年)
 必要に応じて助言等を行い進路実現を図る。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1. 特別ニーズ教育 (通年)
 大半の学生は、特別なニーズのある子どもの理解とその関わり方についての知識が深まったと考える。しかし、保育現場に就職しない一部学生の学修意欲の維持向上が大きな課題である。教室変更の影響もあって、視聴覚機器の操作に不手際があったことが反省点である。

2. 保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ (通年)
 長崎市内の児童養護施設への就職が実現した。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度						
				人	%	人	%	人	%	人	%	人	%			
特別な教育的ニーズの理解とその支援	19Y	4.3	4.3	4.3	4.3	32.4分	4.2									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
特別な教育的ニーズの理解とその支援	19Y	必修	100	80.5	15	15.0%	46	46.0%	27	27.0%	11	11.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

1. アクティブラーニング
 特別ニーズ教育において取り組んでいるが、新型コロナウイルス感染防止のためグループ協議は取り止めた。

2. オフィスアワー
 月曜日に実施したが、実習前後に障がいのある子どもの関わり方や進路についての相談があった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1. 特別ニーズ教育 (通年)
 新型コロナウイルス感染防止対策に留意しつつ、アクティブラーニング (主体的・対話的で深い学び) の要素を取り入れた授業改善に努める。

2. 保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ (通年)
 次年度は担当しない。

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	中澤 伸元											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>「生活と音楽」では、学生たちは、初めての体験授業に面食らったようで、コミュニケーションを図れなかったが、後半からは学生との意思疎通も生まれ、コミュニケーションも高まりそれぞれが自己の課題に挑戦するようになった。その為早めに課題の理解からの指導から入るようにしていきたい。</p> <p>「卒業研究」 目標を設定したことで、個人個人の課題、共通の課題、目的意識をお互いが理解し合い、全員が目標に向かって自覚を持ち素晴らしい成長を見せた。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>「生活と音楽」は、理解しやすい臨場感を持ったテンポで発問授業に徹する。</p> <p>「卒業研究」では、中澤卒研のゴール設定を果たすべく課題の分離を身につける。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<ul style="list-style-type: none"> ・ネガティブな思考をポジティブ思考に指導し、表現、言葉などのレベルのコンフォートゾーンの移行訓練。 ・言葉、表現に臨場感、リアリティを取り入れる訓練に徹する。 																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>課題に対してポジティブ思考でセルフイメージを高めることで臨場感、リアリティを使うことを徹底することで成果が出た。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
卒業研究	19Y	4.9	5.0	4.9	5.0	144.0分	5.0									
生活と音楽	20Y	4.3	4.4	4.4	4.3	29.7分	4.4									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
卒業研究	19Y	必修	10	88.8	6	60.0%	4	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活と音楽	20Y	必修	92	77.7	14	15.2%	29	31.5%	34	37.0%	15	16.3%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>アクティブラーニングとオフィスアワーは卒研にはなくてはならないもので、学生たちはそれぞれが自分の意見を言い合い、能動的に活動し協力した。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心を過去から未来思考脳に徹する。 2. 具体をレベルアップのため抽象化する訓練。 3. 事実だけでなく感覚を育てる。 																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	中村 浩美
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

個室で行うマンツーマンのピアノ・弾き歌い・歌唱のレッスンでは学生の必要以上の緊張や抵抗があるため、教員と学生間の距離が少しでも縮められ信頼関係を築くことに勉めた。レッスンの内容や進め方に於いても学生の意見や考え・思いを随時聞くようにした。結果、学生個人個人の性格を早く把握する事ができ、その学生に見合ったレッスンができた。教員の性格や考え・思い・経験談を授業、個人レッスン時に話す事で学生も心を開き、学生自身が自らの課題点や到達点を発見でき次のステップに生かせる事もできた。

課題は増加しているピアノ初心者に対して、授業時間内で理解力と進捗力をどのようにつけるか、また消極的な面で表現できない学生が、一歩踏み出す勇気を持てるための指導法が課題である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・教員として学生が成長できるための能力や個性を持ち備えている事を常に意識し、指導をする。
- ・少しの成長や達成に対しても褒めながら分析・説明をする。
- ・保育者になるための高い意識を持たせること、やる気にさせるための指導方法の工夫をする。
- ・人の前にでることへの羞恥心を軽減できるための授業展開を行う。
- ・言葉や感情や場を考慮して指導する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・コロナ感染予防に非常勤講師の先生方にも協力をして頂き、また、学生にも頻繁に感染要望への諸注意をしながレッスンをを行った。
- ・学生一人ひとりの個性を早く見極めて、その学生自身に見合った指導をする。
- ・やる気にさせる言葉や授業内容及び進め方の工夫をする。
- ・メンタル面強化の励みの言葉かけをする。
- ・演奏を苦痛に思わず、奏でられる事の喜びや楽しさを感じてもらう。
- ・学生自身が自らの課題点や到達点を発見でき、次のステップに活かせる助言と指導を行う。
- ・自信は勇気の積み重ねであり、失敗を恐れず一歩を踏み出すメンタル面からの勇気を促す

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

どの教科においても常に学生とのコミュニケーションを大切にしてきた。教員と学生間の距離を縮めながらお互いを知り、信頼関係を築く事で極 度な緊張感を和らげ、ピアノ個人レッスン・ゼミでは特に教員と学生間の溝はなく、目標・到達点に近づくための指導ができたと思う。

しかし、コロナ渦でマスク着用での歌唱指導には限界があった。特に班編成の少人数を対象とした「保育と音楽表現」では例年の授業ができず、保育士として人の前に出て子どもの思いや考えをイメージしながら発言する事や音楽表現がf igerための指導が難しかった。2年生全員での授業の形に変更した事で、学生の保育士になるための意識を持った緊張感が減少気味となり、それに対する指導がかえって威圧的になってしまう面もあった。しかし、学生達は歌う事が好きで、知っている曲は勿論初めての曲にも興味を持って受講していたのは良かった点と言える。それに関しては選曲も良かったと考える。まだ緊張感を抱き控えめになりがちである事や、自分を表現する事が苦手な昨今の学生への声かけと指導には威圧感なく行う事は課題である。また、年々ピアノ初心者が増加しているが、その学生達を始め努力の継続がなく次のピアノレッスン・手あそび歌授業を迎える学生が非常に多くいたため、どのような指導が練習継続の強化に繋がるかも課題である。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
卒業研究	19Y	4.9	4.9	4.9	4.9	150.0分	4.9		
保育実習 I	19Y	4.6	4.6	4.6	4.5	79.8分	4.5		
保育実習 II	19Y	4.6	4.6	4.6	4.6	84.4分	4.6		
子どもの歌と伴奏法	20Y	4.0	4.0	4.4	4.4	131.3分	4.0		
保育実習指導 I	20Y	4.5	4.4	4.5	4.5	48.2分	4.5		

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
卒業研究	19Y	必修	12	89.9	11	91.7%	0	0.0%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習 II	19Y	選択	98	82.1	18	18.4%	41	41.8%	33	33.7%	6	6.1%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	20Y	必修	8	71.6	0	0.0%	1	12.5%	5	62.5%	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

音楽を通じて心の悩みを打ち明ける学生を始め、音楽に関係なく悩みや不安を打ち明けて来る学生も多く、それぞれ抱えている悩みに時に教員として、時に人生の先輩として、心からの思いや考え、方法などを時間をかけながら相談にのっている。相談に来た学生も時間をかけて何度も面談をする事で心のつかえが取れたり、悩みを解決しようと言う前向きな考えを持つようになってきたりと、悩みを克服したい一心がその学生の成長に繋がっていると感じている。今後も学生の悩みや相談には時間をかけてじっくり話を聞き、教員個人の考えを押し付ける事なく、学生の悩みの負担を軽減でき成長できるための指導をしたい

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・ピアノレッスンに関しての不安感が強い学生、自分の声や声の出し方にコンプレックスがある学生へのメンタル面の強化や、学生自身が各々の課題を知り、音楽を敬遠しないで克服できるための指導を強化したい。
・学生一人ひとりの性格を早く把握し、各々の個性を大切に教員と学生間の信頼関係を構築しながら指導したい。
・学生自身が自分の良さや課題点、好きな面、嫌いな面と、自分を知る事によっ今後の人生にどう繋がるかのディスカッションを設け、教員も自身の経験話をしながら課題点を克服できるように、また良い点はさらに伸びるよう指導したい。

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	福井 昭史
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

各授業の目標を踏まえ、授業において受講生に確かな学力を獲得させるための、個に応じた学習の計画を考察しながら指導にあたることを目標とした。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

授業科目のうち、講義が主となるものにおいては、毎時間、学習内容の要点と質問事項、感想などを個々に記述させることで、授業内容の定着を図った。演奏実技が主となるものにおいては、個々の技能に応じた課題の提示や、編曲など教材を工夫することで、受講生に過度な負担とならないよう配慮した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

受講生が個々の課題を意識した学習に取り組むことで、意欲を持ちながら主体的に学習に取り組む姿がある程度見られた。今後も受講生の実態を十分に把握し、指導の計画と実践に努めたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生活と音楽	19S	4.4	4.6	4.8	5.0	12.0分	4.6
生活と音楽	19L	4.6	4.6	4.6	4.6	8.6分	4.6
保育と音楽表現	19Y	4.6	4.4	4.4	4.6	97.1分	4.6
子どもの歌と伴奏法	20Y	4.0	4.3	4.5	4.0	90.0分	4.3

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生活と音楽	19S	選択 必修	5	82.0	1	20.0%	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活と音楽	19L	選択 必修	15	85.4	2	14.3%	11	78.6%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	19Y	選択	17	84.4	3	17.6%	14	82.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	20Y	必修	4	80.5	0	0.0%	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

どの授業でも、グループによる活動など受講生一人一人が主体となって学習に取り組める活動場面を設定し指導に当たった。また、それができる環境づくりとして、学習の目標とそれに至る活動方法を受講生一人一人が自覚できるよう留意し指導に当たった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

演奏表現などの実技科目においては、個々の技能の程度が学習の成果に大きな影響を与えることから、受講生の実態を十分に把握することに努め、個に応じた指導ができるような指導計画を作成したい。また、教材の難易度や質が学習に大きな影響を及ぼすことから、教材の研究と開発に努めたい。

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	福井 謙一郎
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

さらなる授業のICT化を図ることを目的とする。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

遠隔授業を用いて学生の理解が深まる授業を提供する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・オンデマンド形式での授業を実践し、学生のレポート内容にも触れつつ授業を行った。
- ・後期は演習科目がほとんどだったため、オンデマンドと対面の双方を取り入れて実践した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

動画配信形式にも慣れてきたのか、学生の授業に対する動機付けも高かったと思われる。来年度も引き続き実践していきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
心理学	19S	4.7	5.0	4.3		4.7		30.0分	5.0
心理学	19L	4.6	4.8	4.7		4.7		23.3分	4.7
子どもの心理学	19Y	4.4	4.4	4.5		4.4		38.0分	4.4
保育相談支援	19Y	4.5	4.5	4.5		4.5		52.8分	4.4
卒業研究	19Y	4.5	4.5	4.8		4.7		92.3分	4.5

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
心理学	19S	選択 必修	3	91.3	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
心理学	19L	選択 必修	28	87.3	9	33.3%	18	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの心理学	19Y	選択	98	86.3	5	5.1%	91	92.9%	2	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育相談支援	19Y	選択	98	89.0	58	59.2%	38	38.8%	2	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
卒業研究	19Y	必修	13	90.2	5	38.5%	8	61.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

保育相談支援といった演習科目に関しては、調査学習を取り入れ、それを発表する形式をとったため、アクティブラーニングが十分に実施されたのではないかと考えられる。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

学生の理解度をさらに高めるため、遠隔授業の中でのICT化を進めていきたい。

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	船勢 肇
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

・講義では、情報量を絞って、講義の流れが理解しやすいように工夫する。
 ・特にレポートの添削を丁寧におこない、基礎的な文章力の向上を目指す。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

・講義では、幼児教育の基礎的な内容と、学ぶ範囲を広げるように留意した。
 ・1年生と2年生との情報交換会については、地域ごとに組み合わせて実習園が重なるように配慮した。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

・逐一、学生にわかる表現を用いることに留意した。
 ・社会人の教養として、社会問題への関心があることをふまえて講義した。
 ・レポートの添削をおこない、朱入れして返却の上、指導した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
--

・幅広い教養への関心については、一見関係の無いような題材であっても、幼児教育への関わりに言及すると効果的であった。ただ、卒業後も幅広く学ぶ態度の定着には困難を感じた。
 ・文章の改善はみられたが、段落をつける習慣もない学生も多くみられ、基礎的な文法が定着しているとはいえない。その意義づけをより丁寧におこないたい。

学生による授業評価アンケートの結果							
-------------------	--	--	--	--	--	--	--

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
保育者論	19Y	3.7	3.5	3.8	3.7	33.0分	3.5		
卒業研究	19Y	2.7	1.7	3.3	3.3	50.0分	2.3		
保育・教職実践演習(幼)	19Y	4.4	4.4	4.4	4.4	72.9分	4.4		
領域「言葉」の指導法	20Y	4.1	4.1	4.2	4.1	53.0分	4.1		

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育者論	19Y	選択	99	77.4	8	8.1%	28	28.3%	31	31.3%	32	32.3%	0	0.0%	0	0.0%
卒業研究	19Y	必修	3	73.3	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習(幼)	19Y	選択	98	83.8	18	18.4%	61	62.2%	13	13.3%	6	6.1%	0	0.0%	0	0.0%
領域「言葉」の指導法	20Y	必修	92	80.0	15	16.3%	18	19.6%	38	41.3%	21	22.8%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・1年生と2年生の情報交換を目的として交流会を実施した。これまでは考慮していなかった実習園の組み合わせを含めて班分けを行い、一定の好評を得た。
 ・レポートの添削をおこない、基本的な文章のルールの定着を図った。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

本学の学生は「現場でどんな役に立つのかよくわからないが、いろんなことを勉強しておこう」という意識が弱いようである。しかし、平成26年の中教審をみても短期大学においても教養教育の重要性が確認されている。さらに、保育者には子どもに多様な学びの機会を提供する責任がある。困難が予想されるが、次年度も教養教育の意義を学生に伝える方法をより追求していきたい。

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	松尾 公則											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>ヒトと生物では講義一辺倒にならないように工夫した。講義内容に合わせた実物や模型、関連するDVDなどを持ち学生が緊張が継続するように努めた。講義内容も実際に幼稚園や保育園で役に立つ内容としたため、受講態度もよかった。</p> <p>卒業研究では、前年度以上に生き物に対する関心が高く非常に積極的であったので、多くのことを実施できた。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)																
<p>ヒトと生物では、前年度以上に講義内容を精選し現場の幼稚園や保育園で役立つような内容となるよう努めた。さらに、振り返りの時間を多くして講義内容が定着するように努めた。</p> <p>卒業研究では、コロナの影響もあり密な活動を避けるよう野外での活動を中心とするように努めた。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>ヒトと生物では、学生の学びたい内容を聞き、それを中心に講義を実施した。講義形式ではプリント、実物、模型、DVDなどの工夫も例年通りに実施できたと思う。</p> <p>卒業研究では、活動したい内容を卒業生に選択させることで向上心を持たせるように努めて実施した。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>ヒトと生物では、受講者が7名と少人数であったため一方的な講義にならずに質疑応答を中心に展開することができた。少人数の場合はこの方法が最適と思うが、多人数になったときは更なる工夫が必要と感じた。</p> <p>卒業研究では、9名の卒業生全員が生き物に対する興味関心が高かったため非常に活発な研究となった。コロナの影響で、野外活動が中心となり、自然遊びやネイチャーゲーム、ザリガニ撲滅作戦など様々なことに取り組んだ。毎年実施している長崎特別支援学校のカエルの授業は、訪問しての授業ができなかったため、DVDを作成して間接的な授業を展開した。</p> <p>来年度もコロナの影響は継続すると思われるので、更に工夫して取り組ませていきたい。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル		教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度						
ヒトと生物	19Y	4.9		4.9	4.7		4.9		8.6分	4.9						
卒業研究	19Y	4.9		4.9	4.9		4.9		40.0分	4.9						
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ヒトと生物	19Y	選択 必修	7	92.1	5	71.4%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
卒業研究	19Y	必修	9	92.7	9	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
特記事項なし																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)																
<p>ヒトと生物は、更に学生が現場で役立つ内容としていきたい。</p> <p>卒業研究は、来年度からゼミナール形式となり時間も半分となるため、さらに内容を精選し、充実した研究を取り組ませていきたい。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	光武 きよみ
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

座学ばかりではなく、グループワークなどを取り入れ、時間の許す範囲で発表の機会を作ったが、多人数のため全員に発表の機会とは与えられなかった。演習においては、実技試験不合格の学生には、授業以外の時間で個別対応を実施した。その結果、実習前には、ほぼ全員が一定レベルに達したと考える。前回課題としていた実技試験後の時間の使い方が、手順や注意事項記入用紙を記入してもらうことで改善した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・課題などを通して自主的な学習を進め、その後授業で復習をしながら内容を深める。演習科目では振り返りシートを活用し、座学では課題を通して家庭での予習等ができるよう配慮する。
- ・グループワークや個人作業を行ってもらい、毎授業ごとに自分の意見を述べる時間を作る。
- ・授業の中では必ず意見交換の場を設け、他者の意見を聞きながら学生自身が意見を述べるように授業を展開する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

2年生に関しては、実際の業務を考えて課題提出等も実施しながら進めることができ、1・2年生問わず、個人作業やコロナ禍での少人数のグループワークから発表につなげていくことができた。対入職ということもあり、大人・子ども問わず人前で話をしたり、説明をする機会が多い。そのため、正しい情報を他人にわかりやすく説明するという機会ができた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

2年生に関しては予習復習の時間も確保できていたが、1年生に関してはアンケート結果から家庭学習時間が比較的短かったことから、少々不足していたと考える。ただ、1・2年生の総合評価として、9割強の学生が理解できた・ほぼ理解できたと回答していることから授業内容等に関しては問題ないと考える。またアンケート結果からも、「他の学生の意見を聞くことができた。流れを把握できた。子どもたちの病気について学ぶことができた。」との回答が多数あり進め方としては良かったと考える。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
子どもと保健	19Y	4.5	4.5	4.5	4.5	50.2分	4.5		
保育実習 I	19Y	4.6	4.6	4.6	4.5	79.8分	4.5		
教育実習 (事前・事後指導1単位含む) (幼)	19Y	4.6	4.6	4.6	4.6	85.0分	4.6		
子どもと健康 (保健) (未満児)	20Y	4.4	4.3	4.3	4.3	47.0分	4.3		
子どもと健康 (保健) (以上児)	20Y	4.4	4.4	4.3	4.3	45.7分	4.4		
乳児保育	20Y	4.5	4.5	4.3	4.2	47.9分	4.4		

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもと保健	19Y	選択	99	81.8	13	13.1%	52	52.5%	30	30.3%	4	4.0%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習 (事前・事後指導1単位含む) (幼)	19Y	選択	96	80.7	14	14.3%	48	49.0%	27	27.6%	7	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと健康 (保健) (未満児)	20Y	必修	92	77.8	6	6.5%	38	41.3%	30	32.6%	18	19.6%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと健康 (保健) (以上児)	20Y	必修	92	77.8	6	6.5%	38	41.3%	30	32.6%	18	19.6%	0	0.0%	0	0.0%
乳児保育	20Y	選択	92	77.5	14	15.2%	30	32.6%	24	26.1%	24	26.1%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

学生より、特別選任での勤務のため学内にいないことが多く、なかなか話しかけづらいとの意見があり、そこが反省点である。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

本年度で退職のため、未記入とする

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	本村 弥寿子
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度は領域「表現」の指導法が1年前期に開講されていたため、保育指導案の書き方も保育の展開の知識もないまま模擬保育を実践することとなった。そのため、活動が子どもにとって楽しいか否か程度の振り返りになり、事後に深まりを持たせることが難しかった。そこで、今年度は、「指導法」と名の付く科目を後期に開講するよう時間割を変更した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

領域「表現」の指導法と領域「環境」の指導法の模擬保育を同時に行い、活動や子供の成長を「領域」を窓口として多面的に捉えるようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

コロナウイルス感染予防のため実際に模擬保育を実践することは控えた。代わりに、グループ活動で保育を構想し指導案を作成して解説する機会を設けた。グループ開設の後、クラス全員で協議を行い、質疑応答のほかに意見や考えを発表し合った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

同時期に「カリキュラム論」で指導案作成の方法を学んでいるところであったため、グループで確認し合いながら指導案作成が行えた。そのため、指導案作成の基本事項は身につけやすかったと考える。実際に模擬保育を行わなかったので時間的にゆとりが生まれ、意見交換が活発になされた。半面、実際に行動していないことから保育の構想が細やかに行えなかった。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
卒業研究	19Y	5.0	5.0	5.0	5.0	106.4分	5.0
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	19Y	4.6	4.6	4.6	4.6	85.0分	4.6
保育・教職実践演習(幼)	19Y	4.4	4.4	4.4	4.4	72.9分	4.4
領域「環境」の指導法	20Y	4.3	4.3	4.4	4.3	86.4分	4.2
領域「表現」の指導法	20Y	4.3	4.4	4.3	4.2	84.7分	4.3
カリキュラム論	20Y	4.3	4.4	4.4	4.3	112.7分	4.4

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
卒業研究	19Y	必修	11	90.3	6	54.5%	5	45.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	19Y	選択	96	80.7	14	14.3%	48	49.0%	27	27.6%	7	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習(幼)	19Y	選択	98	83.8	18	18.4%	61	62.2%	13	13.3%	6	6.1%	0	0.0%	0	0.0%
領域「環境」の指導法	20Y	必修	92	78.7	18	19.6%	31	33.7%	21	22.8%	22	23.9%	0	0.0%	0	0.0%
領域「表現」の指導法	20Y	必修	92	79.8	17	18.5%	35	38.0%	24	26.1%	16	17.4%	0	0.0%	0	0.0%
カリキュラム論	20Y	選択	92	73.0	3	3.3%	25	27.2%	31	33.7%	33	35.9%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

グループで保育指導案を作成したり意見交換を行ったりする時間を十分に確保した。そのため、図書館を存分に利用したり各々がインター一年とで検索して情報交換をしたりし、一人では十分になされない学びの機会が確保できた。それでも理解ができない場合は、オフィスアワーの時間等を活用して教員に尋ねるなど、積極的な学びがなされていた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

保育の構想や事後の意見交換の時間は十分に確保しながらも、保育実践を行う機会を設けたい。

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名	山中 慶子													
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																			
<p>前年度は、前任者による授業であった。 通年授業の半期であるため、2年前期に繋げていけるような内容を考えて授業を行った。 2年前期で、グループによる模擬保育を行うため、準備段階としてのグループワークや、「遊びの計画」を取り入れた。 製作、掲示の流れが出来てきたので、今後も掲示することを意識しながら作品を作っていけるよう指導していきたい。</p>																			
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																			
<p>製作の進度において、個々でばらつきがあるため、時間の使い方を工夫したい。 グループワークを行う際、能力が偏らないようなグループ編成を取り入れるようにしたい。</p>																			
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																			
<p>内容は、前年同様と考えているが、製作の進度による時間配分などを検討し、個々の満足度を高めるよう工夫する。</p>																			
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																			
<p>全体的に、学生が興味を持つ活動が行えたと思う。 自身の研究にもつなげることが出来たので、授業に還元していきたい。</p>																			
学生による授業評価アンケートの結果																			
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度	評価											
								S		A		B		C		F		W (脱落)	
								人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
卒業研究	19Y	4.9	5.0	4.9	4.9	43.6分	4.8												
子どもの絵と製作(指導法)	20Y	4.4	4.5	4.5	4.5	59.0分	4.6												
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	S		A		B		C		F		W (脱落)				
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%			
卒業研究	19Y	必修	11	84.2	3	27.3%	8	72.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%			
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																			
<p>授業の中で、グループワークによる実践的学びを実施することが出来た。 しかし、グループによって学びの差があると感じたため、改善していきたい。 オフィスアワーに関係なく学生が訪ねてきたため、その都度対応するようになった。</p>																			
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																			
<p>学生の理解度があがるような資料・教材の工夫を行う。 保育実践で活かせるような課題選び。</p>																			

令和 2 年 後 期 授業評価報告書		氏名	池田 光寿													
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
今年度が初担当であるため記載なし。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>今年度の目標：科目の到達目標を達成する。</p> <p>1. 各食品の特徴を説明できる。</p> <p>2. 各食品に含まれる栄養素及びその含有量を説明できる。</p> <p>3. 調理、加工、貯蔵に置ける食品の成分変化について説明できる。</p> <p>4. 各食品の適切な取扱いと貯蔵方法について説明できる。</p> <p>5. 調理も目的に応じて食材を選ぶことができる。(今年度が初担当であるため改善計画については記載なし。)</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
到達目標を達成することを目的に、シラバスに沿って授業を実施した。また、高校理科の履修状況や他の履修科目(主に、食べ物と健康、人体の構造と機能の分野)とのつながりを意識して授業を展開した。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>授業評価アンケートおよび定期試験の結果から、学生の理解度ならびに授業環境は概ね良好であると思われた。また、学修のポイントが押さえられていて確実に知識が定着したと推察された。しかしながら、一部学生の知識の定着が不十分であり、加えて授業外の学修時間が少ないので、次年度は充実した学修活動を促したい。以上のことから、良い点は現状を維持しつつ、知識の定着が不十分である学生を早い段階で認知し、学修のフォローを充実させていくことが次年度に向けての課題である。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
食品学Ⅱ(食品の機能)	20S	4.5	4.6	4.3	4.5	49.1分	4.5									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
食品学Ⅱ(食品の機能)	20S	選択	23	89.2	14	63.6%	6	27.3%	0	0.0%	2	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>アクティブラーニング(以下ALと略記)は「具体的・直接的コミュニケーション」であると捉えている。したがって手法にこだわらず、学生と教員間で具体的・直接的コミュニケーションがなされているのであれば全てそれはALであると考えている。担当授業では、常に双方向型(学生⇄教員)の展開を意識して授業を実施した。そのことによって、学生の理解度などを常にチェックしながら授業の進行をができた。しかしながら、全ての学生に目が行き届いていなかったことが次年度に向けての改善点である。オフィスアワーは実施していないが、質問等への対応はメールのやりとりで行った。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>次年度の目標：今年度の目標は概ね達成されたと考えられるが、再試験該当者が2名いたので十分とは言えない。次年度は再試験の対象者がでないように、適時、学生の学修の進捗状況を確認するとともに、速やかにフィードバックする。</p> <p>改善計画：適時小テストを実施して習熟度を確認するとともに、速やかなフィードバックを行う。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名	和泉 喬										
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>昨年度報告書では「成績の差が大きく、二極化が進んだ」との指摘があったが、今年度はそれほどではなく、A評価以上が多かった。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>いわゆる「医薬品」以外は顕著な薬効はなく、健康食品に効果を期待できないこと、また、その代わり「医薬品」には副作用などが存在することを徹底した。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>例年の通り小テストと称して過去問を出題し、理解度をチェックした。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>小テストや本試験の成績は非常に良かった。全体的な満足度もそこそこ高かった。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル		教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度							
薬学・衛生学	19L	4.2		4.2	4.2		4.1	32.3分	4.3							
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
薬学・衛生学	19L	選択	14	83.5	5	38.5%	4	30.8%	3	23.1%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>特に実施しなかった。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>特になし。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	井上 靖久
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度は報告者は科目を受け持つことが出来なかったため、担当者の成果・課題について言及するのは難しいが、担当者の話によれば、この科目の難解さを考慮すればじゅうぶんの成果が上がっていると考えられる。また、引き続き行った実習科目でも学生の理解度を確認することが出来た。課題としては実習科目への連続性がかけていたことですが、これを求めることは今年に関しては無理なことである。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

今年度は報告者が電気喉頭による発声に頼るために、聞き取りに困難が起きる可能性が高いことが考えられるため、講義ノート配布して専門用語の聞き取りを補助した。また、成績評価もより重点項目を明確に絞って講義を行った。さらに、成績判定に関しても出題範囲を重点に絞ることを周知して試験に臨ませた。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

特に重点的な項目を強調して、学習内容を高度にする部分と、場合によっては難易度を下げる工夫もして、柔軟に授業をしたい。学生の反応や理解度を確認しながら臨機応変な授業構築が求められると考えている。また、重点テーマを挙げて、成績の判断が的確出来るように、学生の準備を促したい。学習成果が的確に成績に繋がることを実感させたい。また、健康の維持、疾病予防などに関して、知識を詰め込むのではなく、考える習慣をつけることに重きを置いた授業を行いたい。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

科目の難解さから考えると、アンケート結果からは内容のレベルにしろ、教員の教え方、意欲などについては十分合格点であると考えられるが、理解度が不十分である。難しい科目であるが、今後、ますますの工夫が必要である。学生の中には理解不足のためか、真剣な態度がみられない学生もいたが、報告者の至らな差もあると思われる。今後は出来ることならば学生全員が熱く参加できる興味深い例などを挙げながら授業内容をさらに改善したい。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル			教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度					
		4.2	4.0	4.2		3.8	70.9分	4.0								
解剖生理学	20S	4.2			4.0	4.2		3.8		70.9分	4.0					
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
解剖生理学	20S	選択	23	80.5	2	9.1%	12	54.5%	7	31.8%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

与えた課題に関しては手書きで解答準備を進めることを求めた。正解を調べ写すのではなく、不完全でも自ら考え、「自分の言葉」で説明する習慣をつけさせるようにした。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

次年度に向けては、より実生活で向き合えなければならないことや、将来に予測される学生自身の生活環境の変化や、家族構成の変化に伴う多くの事象への今からの想像力を養いたい。特に、健康上や疾病に対する事柄をより具体的に示して興味の喚起や理解の助けになるよう心がけたい。

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	鶴川 佐由美											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
限られた時間内での密度の濃い適切な指導を行う。 学生のレベルにあった奏法を学生自らも考えられる指導が課題にあがっていた。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
①基礎理論を理解し、保育現場での生活の歌や季節の歌の弾き歌いを音楽的に表現できる。 ②独自の曲集・エチュードを進めていく。 ③表情豊かに明るく楽しく歌うことが出来る。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
ピアノ演奏指導…個々のレベルに合うエチュード集・曲集等を選別し奏法指導、子どもの歌の伴奏を個々に合うレベルに編曲し、奏法を指導。 歌唱指導…どう体を使って歌うか、伴奏と歌のバランスを指導																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
アンケート結果より、前期より向上している項目が多いのが分かる。授業外学修時間も増え、自主練習の大切さを感じた結果だと思われる。楽譜通りの伴奏ができずとも、簡易伴奏でとまらない演奏をできるよう指導したい。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
保育と音楽表現	19Y	4.6	4.8	4.0	4.8	132.0分	4.2									
子どもの歌と伴奏法	20Y	4.4	4.2	4.2	4.1	124.3分	4.1									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	19Y	選択	5	74.8	0	0.0%	3	60.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	20Y	必修	14	75.4	0	0.0%	4	28.6%	9	64.3%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
授業後、指使いやリズムの質問があり、学生に合った指使いを一緒に考え、またリズムは範奏し指導した。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
自分自身の演奏レベル到達までかかる時間を日頃の練習・試験での結果から考えられるようになってほしい。計画を立てた練習スケジュールを指導したい。																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名		内田 誠									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>苦手意識を持たせないよう、言葉かけに気を付けて指導した結果、昨年よりさらに自主的に取り組める学生が増加。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>学生自身が考えた選曲を演奏する等、受け身にならないよう工夫。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>学生同士の演奏や歌を聴きあうことで、更なる意欲向上を目指して実施。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>よりわかりやすく丁寧な指導を目指します。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
保育と音楽表現	19Y	4.6	4.6	4.6	4.6	105.0分	4.8									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	19Y	選択	12	81.3	2	16.7%	6	50.0%	4	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>実施していない。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>次年度は授業数が減る分、よりピンポイントで分かりやすい授業を目指します。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名	江 副 功										
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
前年度、配布資料を検討し内容を大幅に変更した為、学生が授業に対し興味関心を抱いていることを実感した。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<ul style="list-style-type: none"> ・DVDを講義に入れる。 ・丁寧な板書をして、理解しやすい講義を実施する。 ・興味関心をもつ講義を実施する。 ・演習(実技)の際、数多く添削をし、褒めて伸ばすことに留意する。 																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<ul style="list-style-type: none"> ・天声人語603文字を丁寧に書写させる。→語彙・語句・文体について説明し理解させた。難しい語彙・語句・筆順については板書して説明した。 ・書学・書道史等については、DVDを使用した。 ・ペン字・毛筆小字については、手本を作成し、徹底して真似させ上達を見た。添削の際、褒めて指導することに留意した。 																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
今年度は、栄養士コースの学生のみの受講であった為、授業が大変しやすかった。学生も真面目に真摯に取り組んだ。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル		教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度								
生活と書	19S	4.8		4.8	4.7	4.7	56.3分	4.6								
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生活と書	19S	選択 必修	24	90.3	16	66.7%	7	29.2%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
時間内にて指導完了。特になし。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
今年度の授業方法を踏襲して良いと考える。																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	太田 久美子											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>昨年度の授業評価報告書では、基本的な方針はそのまましつつ、より学生にわかりやすい講義を心がけることが課題にあがっていた。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1) 日本国憲法や法律に関心を持ち、身近なものとして意欲的に学習することを促す。 (2) 日本国憲法の意義・概要について学び、市民として必要な日本国憲法に関する基本的理解を修得する。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>(1) 昨年度同様、基本的には、毎回、講義の際にレジュメを配布し、講義形式で授業を進めた。もっとも、事前課題を課し、その内容を発表してもらったり、なるべく学生への問いかけを多くして、学生自身に考えてもらう機会を設けるよう工夫した。 (2) 日本国憲法の問題について興味を持って考えてもらうため、関連する映画を(昨年よりも多く)観てもらう等工夫した。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>19Sクラスについて、一見すると、昨年よりも平均点が35点上がり、アンケート結果も良くなっているが、対象となる母数が少ない(昨年度は2人、本年度は1人)ので、個人の特性によるものと推察される。 19Yクラスについては、A判定の者は少なくなったものの、S判定及びB判定の者は昨年よりも増えている。この点、昨年度同様、定期試験時によく解答できていた者の多くは、きちんとレジュメを整理し、メモ等をとっていた者だったと把握しており、講義をきちんと受講していた者については相応の成績になっているものと思われる。 学生によるアンケート結果は全体的には評価が上がっているようではあるが、昨年度より「全体的な満足度」は0.1下がっているため、次年度は、より講義に満足してもらえるよう工夫を重ねる所存である。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度							
				人	%	人	%			人	%					
日本国憲法	19S	5.0	5.0	5.0	5.0	30.0分	5.0									
日本国憲法	19Y	3.2	3.0	3.5	2.8	12.1分	2.9									
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本国憲法	19S	選択 必修	1	95.0	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本国憲法	19Y	選択 必修	99	67.0	2	2.0%	4	4.0%	26	26.3%	67	67.7%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>講義後にオフィスアワーを設けていたが、講義内容に関する質問を受ける機会は少なかった。もっとも、質問をしてくれた学生がいたおかげで、当該内容に関する追加のレジュメを作成し、次の講義で補足説明を行うという対応ができたのは良かったと感じている。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>次年度も引き続き、以下を目標として講義を行う。 (1) 日本国憲法や法律に関心を持ち、身近なものとして意欲的に学習することを促す。 (2) 日本国憲法の意義・概要について学び、市民として必要な日本国憲法に関する基本的理解を修得する。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	大野 陽子											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>昨年度の授業評価報告書では、学生一人一人の能力や進度、また置かれている環境(ピアノの有無、確保できる練習時間など)に準じた、丁寧でより具体的な指導を目指すことが課題にあがっていた。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>①基礎理論を理解し、読譜することができるようになる。 ②バイエル教則本を終了する。 ③保育現場に必要な曲(生活の歌)、幼児の歌の弾き歌いを習得する。 ④簡易伴奏法、コード奏法の習得。 ⑤表情豊かに明るく楽しく歌えるようになる。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>①ピアノ演奏に関しては、課題を進めることだけにあまりこだわらず、一つ一つの曲にじっくり時間をかけて取り組み、1曲を「大切に仕上げる」ことに重点をおいてレッスンをした。 ②歌に関しては、コロナ禍においてなかなか通常のレッスンが出来なかったが、マスク着用であっても、笑顔で幼児に接することを想定して弾き歌いをしたり、何人かで聴き合って、良かった点・改善点などをお互いアドバイスをする時間を設けた。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>今年度は、全体的に学生の高い意識が感じられたように思う。積極的に学ぼうとする意欲や、自ら「行動」する姿勢が見られたことはとても頼もしいことだった。ただ、「ピアノを弾く」「歌を歌う」ことの技術的な面においては、まだ目標にたどりつけていない部分があり、「基礎力」の強化と、それに伴う表現力の習得が、これからの課題である。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
保育と音楽表現	19Y	4.9	4.9	4.8	4.9	117.3分	4.9									
子どもの歌と伴奏法	20Y	4.5	4.5	4.3	4.4	102.0分	4.5									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	19Y	選択	11	79.9	0	0.0%	9	81.8%	2	18.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	20Y	必修	10	78.6	0	0.0%	6	60.0%	4	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
実施していない。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>ピアノ初心者やなかなか自信がもてない学生に対しても、これまで以上に、普段の「声かけ」や具体的なアドバイス、笑顔での対応など指導者として、学生一人一人に寄り添ったレッスンを心がけていきたい。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名		大町 福美									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)																
<p>幼児教育科の受講がなく少人数となり、静かだが反応も少ない授業となった。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)																
<p>主体的に学びたいと思う授業。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)																
<p>新型コロナウイルスの影響で一定の距離を置いて着席。歌唱はしない。人数に合わせて教室の変更。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>一定の距離を置いての座席となり、私語が減り授業に集中していた。人数に合わせて教室を変更したことにより、DVD視聴や提示教材が見やすくなった。机の下で携帯電話を触っている生徒がいた。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
日本文化概論	19S	4.3	4.0	3.7	4.5	15.0分	4.3									
日本文化概論	20L	4.5	4.4	4.5	4.5	24.0分	4.4									
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本文化概論	19S	選択 必修	6	84.2	1	16.7%	2	33.3%	3	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本文化概論	20L	選択 必修	16	86.5	4	25.0%	10	62.5%	2	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>実技（自由花生け込み）の際に友人と学び合い、教え合い、高め合う姿が見られた。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)																
<p>華道教授の生け込みをもっと間近で見られるように工夫していきたい。授業開始後、携帯電話を触らなくていいような授業を展開していきたい。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	尾崎 好子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年度の授業評価報告書では、講義に意欲的な受講者が多く、高い評価を頂き、全員が満足し高い成績を修める事ができるよう努めたいとしていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(1) 見やすい板書を心掛ける。
(2) 講義の速度に気を付ける。
(3) 理解度を確認しながら置いて行かれる学生がいない様に気を付ける。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

(1) テキストに沿って診療報酬明細書作成ルールを確認しつつ、実際に学生が演習に取り組むことにより技術を習得できるよう配慮した。
(2) 項目ごとに細かく説明をしっかりと行った後で、更に練習問題を通じトレーニングをした。その後で、解説を踏まえつつ分からないところがあれば質問に応じ、全体にフィードバックし共通理解できるよう配慮した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果から講義方法に問題はないように思う。
成績分布もほぼ高評価で受講態度もよく意欲的に講義に挑んでいたように見受けられた。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
医療事務論	20L	4.9	4.9	4.9	4.8	49.1分	4.9									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医療事務論	20L	選択	22	97.3	21	95.5%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

今回の講義はオンラインによるもので対面講義のように気軽に質問を行うことが難しかったように思うが、画面の見辛さや聞き取れなかった言葉などがあればその場で反応してくれたことがとてもありがたかった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

オンライン講義の場合は、オンラインでもしっかり講義に取り組めるよう撮影方法の工夫を行いたい。
対面講義ができれば、質問等を積極的に受け付け、全員が同じ理解度になるよう対応したい。

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	金 英 泰
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

本科目の授業・教育目標は、アンケートの結果および授業成績からも、おおむね到達していると思われる。小テストなどを取り入れ、各自の習得レベルを確認しながら、授業を展開する。ハンゲルの教科書の内容を各自で声を出して読ませている。一方的に教員の発音を聴くのではなく、学生自らも実際に発音し、教員のアドバイスをその都度、受けている。このような参加型学習が効果を上げていると思われる。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ①授業中に小テストやグループ学習等を導入し、主体的な学習を取り入れる。
- ②文化体験として、韓国の料理作りを体験する。文化祭等で韓国料理を創作・発表など参加型体験を行う。
- ③学生の参加型授業をさらに充実させ、ひとりひとりにきめ細やかな指導を行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

語学の授業であることから、読み、書き、話す、聞く、の基本的なリテラシーに重点を置きながらも、楽しく、親しみやすいように、韓国音楽、映画、伝統文化などもとり入れる。また、学生が主体的に調べて発表する形式もとりに入れていく。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価によるアンケートの平均では、内容やレベル4.3、教員の教え方4.3、学生の学習意欲4.4、学生の理解度4.1、全体的な満足度4.2であった。語学においては、各人の関心度によって、科目の到達目標に対する到達度が違っている。授業の目標に向かって、学生全員が努力できるような教育環境を整える。今後も、導入段階から、各人の理解度を確認しながら、授業を展開していく。授業の具体的工夫としては、テキストの内容について十分に理解できるよう、教員が大きな声を出しながら学生に読み聞かせている。さらに、すぐに学生に復唱させ、正しいハンゲルの発音ができるまで確認している。また、その都度、大きな文字を板書し、ハンゲルの発音構造を説明している。今後もこのようにきめ細やかに授業を行っていく。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
韓国語	20S	4.3	4.3	4.4	4.0	30.0分	4.3
韓国語	20L	4.6	4.5	4.6	4.4	33.3分	4.3

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
韓国語	19Y	選択 必修	5	95.2	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
韓国語	20S	選択 必修	10	99.6	10	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
韓国語	20L	選択 必修	18	97.4	18	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングとしては、一方的に教えるのではなく、学生の参加型の授業を展開している。具体的には、韓国語の発声を自ら行わせ、正確にできるまで、練習をさせている。また、インターネットを使った教員とのやり取り、課題提出を必須としている。オフィスアワーとしては、毎回の授業後に設定している。授業について、学生から質問等があればその場で詳しく説明し、一緒に演習している。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ①すべての学生が理解できるように、基本的な事項を重点的に授業に取り入れる。
- ②初期段階から、授業中に小テストを導入する。
- ③グループ学習等を導入し、主体的な学習を取り入れる、課題発表など。
- ④文化体験として、韓国の料理作りなど、参加型を体験する。(文化祭等で韓国料理を創作・発表)

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	久林 康子											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>学生による授業評価アンケートを見ても学生たちの学習意欲は高いものがあった。人数が昨年より2倍近くもありそれぞれの個性が強い集団だったが、自分の意見を積極的に述べる学生がいたり、欠席しても次には課題等も遅れてでも提出しようとする真摯な姿が多く見られた。課題としては、人数が多かった分、一人一人にかける個別指導の時間が十分取れなかったことが挙げられる。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1) 学生が主体的に考え表現できるよう実践的な内容を多く取り入れる。 (2) コロナ禍にあつて感染しない、感染させないことを十分意識しながら学生たちの体調管理に注意を払う。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>(1) 日本語の正しい表現方法を意見文、依頼文等の作成をとおして育成した。 (2) プレゼンテーションによる発表の機会を設け、学生相互の意見を交換させた。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>今年度の学生は出席率も高く、授業に参加する態度もまじめで協力し合う雰囲気があった。教師の質問にも積極的に反応する学生も多く活気のある授業となった。課題等の提出率も高く、必ずコメントを添えて返却するようにした。課題としては、15時間の短い枠の中で振り返りの時間が十分に取れなかったことがあげられる。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル		教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度						
日本語表現	20L	4.8		4.8	4.6		4.7		53.5分	4.8						
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本語表現	20L	必修	23	80.7	2	8.7%	12	52.2%	8	34.8%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>プレゼンテーションのテーマ設定や作成までの作業時には、学生の考えを尊重しながら適宜指導を行なった。また、大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、インターネット等の情報収集に偏らないように指導した。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1) 学生の課題等を十分把握しながら、日本語の正しい表現方法を身に付けられるように丁寧な指導を行なう。 (2) 講義に使用する資料やワークシート類の工夫をする。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	久保 美洋子											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<ul style="list-style-type: none"> ・発言を引き出して、話し合いながら授業を実現したいのだが、ただ単に出席しているという学生が多い。 ・レジュメの文書を順番に音読してもらうことでなんとか活気を生むことができた。 ・毎回、感想レポートの提出を課した。 																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<ul style="list-style-type: none"> ・「茶の歴史」「日本人と茶」「茶の湯と茶道」「茶を通してのコミュニケーション」を学生たちに認識させたい。 ・例年、着物に対する関心が高いので、「日本文化」としての「着物」を皆で考える。 																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<ul style="list-style-type: none"> ・茶道裏千家紹介パネルによるレジュメの読み込み。 ・(各人の)感想レポートの内容について皆で考える。活発な発言を引き出す。 ・助手の先生による手前の披露。学生たちに茶を点てる体験、飲む体験をさせる。 ・裏千家ビデオによる「茶事」の鑑賞。 																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>学生数が少なかったために、茶を点てる体験、飲む体験を出席者全員に経験してもらえた。その結果、全7回の中でその時が一番盛り上がった。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
日本文化概論	19S	4.3	4.0	3.7	4.5	15.0分	4.3									
日本文化概論	20L	4.5	4.4	4.5	4.5	24.0分	4.4									
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本文化概論	19S	選択 必修	6	84.2	1	16.7%	2	33.3%	3	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本文化概論	20L	選択 必修	16	86.5	4	25.0%	10	62.5%	2	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
実施なし。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
後任講師による展開が望まれる。																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名	堺 蘭										
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>コロナの影響などで、前半の計画は実現できなかった。後期は良かった。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>学生の要望をできるだけ満足させ、授業の内容など更に充実する。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>今まで通り、実用会話を毎回実施する。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>学生の要望に応じ、語学以外の中国の食文化、「医食同源」などを少し取り組む。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
中国語	20S	4.5	4.0	4.5	4.5	105.0分	4.5									
中国語	20L															
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
中国語	20S	選択 必修	3	77.5	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
中国語	20L	選択 必修	1	79.0	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>実施なし。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>テキスト以外、より実用的会話を出来るようにする。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名		沢 みつ子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>マナーの指導に加え「ホスピタリティ」の内容が入るので、将来への関心と学生の感性をはぐくむことが大きな課題であった。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>1) 幅広い分野の事例の紹介による顧客心理の学習をし、心遣いやサービス精神を意識させる。 2) ロールプレイング手法による表現力の工場を目指したが、コロナ禍にあり、断念した。インプロ手法を実習で取入れ、身近な訓練方法の体験を通して、表現することの大切さを学びに取り入れた。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>1. 豆テスト、再テスト、宿題内容を検討して個別サポートをし、知識の強化につなげた。 2. 欠席分のプリントの請求、提出レポートの書き方などへの指導を通し、主体性を育む工夫をした。 3. ホテルにおけるテーブルマナー実習では、服装の工夫を促したのが良かった。特に、コーヒータイトではマスク着用での飲食の方法を体験させた。学生たちの感想文からも、実質的なマナー実習が大きな自信につながったことがわかった。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>学生による授業評価で、教員の教え方の結果は特に問題がなかったように思う。ビデオ鑑賞による学習時間を減らしつつ、効果的に用いることが課題と考えていたので、「おくりびと」は職業差別間を持たない程度にほんの少し鑑賞させたのを反省している。ホスピタリティを感じる作品を読んだり見たりする宿題を出したところ、個々の学生のホスピタリティに対する理解度がはっきりした。この経験を活かし、今後もこのような工夫を取り入れたい。コロナ感染防止対策で、立体的な授業が出来なかったが、最後にインプロゲームだけ取り入れられたのが良かった。元気でまじめな生が多く、試験の結果を除けばC判定の学生はゼロになったであろう。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル		教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度							
マナーとホスピタリティ	20L	4.2		4.1	4.3		4.2	75.7分	4.1							
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
マナーとホスピタリティ	20L	必修	23	79.6	2	8.7%	11	47.8%	8	34.8%	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>不明点などはパソコンのメールアドレス宛てに送るよう指示。授業日以外は大学に常駐していないため、メールにて質問に答えた。授業後は質問に答え、必ず全員退出まで室内に残り、質問のある学生が居ないか確認した。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>「ホスピタリティ」の指導を強めたい。 1. 引き続き、接客接客分野への関心を深めるよう、幅広い分野の実際の取り組み事例を紹介して「心遣いとマナー」を指導。 2. レポートの書き方、提出の仕方を指導しているがなかなか徹底しないことが現状である。あまり厳しくしなかったが、ビジネスマナーの実践として全員が出来るように改善が必要だと思う。指導方法を工夫し、とりくみたい。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名		七條 和子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>病理学に対する学生の意欲度や内容やレベルはかなり高くなっていると思う。今年度、目標到達についてはやや満足が得られていた結果だった。学生にとって実際の専門用語のわかりやすい説明がよかったのだと思った。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1)病理学単元ごとの目標設定を具体的に決めて、易しい言葉で説明する。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>(1)病理学の単元ごとの具体的内容を重要度を踏まえて簡潔にまとめ授業を行う。 (2)学生の授業への参加および理解度を増すために、身近な例を講義内容に加えて学生に話し、簡単な質問をして全員に興味を持てるようにする。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>成績分布、授業評価アンケートなどを参考にすると今年度は学生の意欲や理解度が上がった。健康を重視する社会情勢とがんを始めとする病気についての関心の高さが授業に対する興味つながったと思う。また、栄養士を目指す本学学生の質の向上もあると思います。教員の教え方について更なる改善が必要です。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル		教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度						
病理学	19S	4.5		4.4	4.3		4.1		62.1分	4.3						
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
病理学	19S	選択	28	88.2	19	67.9%	5	17.9%	4	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>アクティブラーニングおよびオフィスアワーについては今年度は実施していないので取り入れて見る必要がある。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1)目標設定を今年度より少し高く設定し、単元ごとにまとめたわかりやすい言葉を使用する。 (2)学ぶ意欲の高い学生へのさらなる対応のために病理と臨床について解説する。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名		田川 千秋											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																		
<p>①自分の日常生活をどのように営んでいるか、自分の行動をふり返り、細かく文章化をしてもらったが、書くという行為に面倒だという声があるため、行動の時間を短くした。</p> <p>②病院、福祉施設などに勤務することを想定し、実際に自力で車いす操作、介助を受けて移動する、片麻痺と視力障害（全盲）を想定し平道と階段の杖歩行体験を実施したが、移動動線のプリントで出していたが説明が足りなかった。</p> <p>③自分が生活するうえで、希望すること、好きなこと、嫌いなことなど書きだしてもらったが、学生の悩みなどが見えてくる。</p>																		
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																		
<p>①実際にできなくても人を支援すること、介護について理解してもらいたい。 自分の生活行為について考えられる機会を増やす。</p>																		
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																		
<p>①面倒でも生活がどのような行為から成り立ち、行動をしているのか、その行為ができなくなったときどうするか 考え、街中でも経験できる移動（白杖、麻痺を想定した杖歩行、自走・介助による車いす移動）を実施した。</p>																		
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																		
<p>アンケートの結果から満足、理解していると思われるが、はじめて杖歩行、車いす走行など体験するため、大声が出やすい。 演習中の場所の設定に工夫が必要と思われる、授業に時期によるが外庭等を使用することも検討の必要がある。</p>																		
学生による授業評価アンケートの結果																		
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度											
介護・救急法	19L	4.2	4.3	4.2	4.3	23.7分	4.1											
介護・救急法	20L	4.5	4.1	4.6	4.5	5.5分	4.2											
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価													
					S		A		B		C		F		W (脱落)			
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
介護・救急法	19L	選択	21	79.5	6	30.0%	11	55.0%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																		
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																		
<p>レポートについて、記入中に気づいたことを伝えている。また返却しないものがあることを伝え了解がある。 今後も同様にする。 学ぶ意欲の低い学生への対応を考える。</p>																		

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名	寺谷 陽子										
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>自ら学ぶ姿勢を身につける、自分の課題に合った練習方法を見つけ、身につけること。また毎回のレッスンで自分の課題を明確に持ち、出来た達成感を味わうことにより、さらなる意欲向上をはかることが課題にあがっていた。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1) 保育者として人の前に立つことを意識させ、身なりや挨拶がいつでも出来るようにさせる。 (2) 練習してきた内容の報告、本時のレッスンの課題を学生に話してもらうことで課題を明確にし、課題達成を実現させる。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>(1) レッスン時にも試験や実習での状況を想定し、人前での話し方や身なり等、保育者になることを常に意識させた。 (2) 学生が自主的に話せるような雰囲気づくりを心掛け、実技の進行状況はもちろん、日々の学生生活の課題も含め学生の気持ちも把握し、課題達成のため一緒に考え取り組んだ。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>まだ恥ずかしさがあり、試験時の挨拶などでは保育者としての態度があと一歩という状況だったが、前期に比べてよくなってきた。実技に関しては少しずつではあるが、自分に合う練習方法をそれぞれに見つけ取り組んでいた。その中でピアノに苦手意識を持つ学生がレッスン時には練習方法を納得しているが、それを継続し自分で個人練習に取り組めていないこともあった。根気強く課題に向かう忍耐を持たせることが課題だと感じた。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
保育と音楽表現	19Y	4.6	4.6	4.6	4.6	84.0分	4.6									
子どもの歌と伴奏法	20Y	4.5	4.6	4.3	4.5	90.0分	4.4									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	19Y	選択	5	79.8	0	0.0%	3	60.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	20Y	必修	13	74.6	0	0.0%	2	15.4%	11	84.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>個人レッスンではあるが、2,3人のグループになっている授業なので、学生同士と一緒に課題を達成しようという姿勢が見られた。まだ課題が来ていない学生に対し、先に課題をクリア出来ている学生が模範となり指導することで、グループ全体が活性化し相乗効果が生まれた。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>達成感を味わえた学生は着実に上達していくのが見えた。苦手意識を持つ学生がいかに自分で行う練習に集中し、根気強く取り組める姿勢を身につけさせるかが課題。飽きさせない練習方法を提示していきたい。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名	中嶋 浜子										
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<ul style="list-style-type: none"> ・本科受講生は欠席が少なく、科目の必要性をよく理解して授業に臨んでいた。 ・子供の歌の定着度を上げ、音楽的な表現も向上させる。 																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<ul style="list-style-type: none"> ・エチュードを使用し、基礎基本の技能を確認する。その応用として、子供の歌との関連性を持たせた伴奏をさせる。 ・受講生個々の個性や力量に見合った伴奏方法を提示するとともに、それを確実に定着させる。 																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎理論の理解と技能の習得を目指す。 ・受講生とのコミュニケーションを図りながら、丁寧な説明と具体的な練習方法を指示する。 																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<ul style="list-style-type: none"> ・受講生アンケート結果から、本科目に対する満足度が高いことが伺える。授業外学習時間増という結果は、本科目の重要性を認識する受講生の意識の高さを表している。 ・受講生には、創意工夫と努力次第で、個々の力に見合った表現力が習得できることを伝えていきたい。 																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
保育と音楽表現	19Y	4.6	4.7	4.4	4.6	106.7分	4.6									
子どもの歌と伴奏法	20Y	4.4	4.3	4.7	4.6	103.3分	4.3									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	19Y	選択	9	77.2	0	0.0%	3	33.3%	6	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	20Y	必修	9	76.9	0	0.0%	3	33.3%	6	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<ul style="list-style-type: none"> ・実習期間の変更、就職試験などで公欠した受講生には空き時間昼休みなどを利用して授業を行った。 ・時間外にも受講生の質問や意見を聞き、選曲や資料貸し出しにも応じた。 																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<ul style="list-style-type: none"> ・本科受講生の抱える問題点を正確に把握するとともに、共にその解決対応を図ることで、受講生の不安や悩みを軽減する。 ・多種多様な楽曲と出会いによって、本科目受講生が音楽の喜びや素晴らしさを実感するとともに、将来の保育現場において、溢れる笑顔でそれを子供達にも伝えられるような保育士の育成を図る。 																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	長尾 久美子
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1 成績が極端に二極化し、C評価がかなり多かったので、受講生が興味関心を持てるような授業を工夫する。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1 栄養士・社会福祉主事が社会福祉を学ぶ意義と目的を理解する。
 2 社会福祉・社会保障の目的と法制度の体系を理解する。
 3 社会福祉の援助方法、専門職の倫理を理解する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1 ニュースや身近な出来事、教員が実際に体験したことなど、具体的な事例を通じて理解できるようにした。
 2 DVDを活用し、ストーリーとして、実際の場面や当事者の暮しや思いが伝わるようにした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1 S (学生数28名) はアンケート結果は、ほぼ全項目4.4、成績も「S」評価が53.6%の非常に良好な結果であったが、L (学生数6名) は、全項目でほぼ3.7、成績は「B」が57.1%であり、学生の所属により大きな差が出た。
 2 今年度のSの学生は、授業中の反応も良く、レポートの内容も、自分の意見として良く書けており、関心を持っているのが良く伝わってきた。
 3 Sの学生は、卒業後の職場が、高齢者施設、病院、保育所、社会福祉法人などであったり、実力試験の科目であるなど、現実的に関心を持てたのではないかと考える。反面、Lの学生は、一般職を目指している学生が多く、身近に感じられなかったのではないかと考える。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
社会福祉概論	19S	4.3	4.4	4.4	4.4	34.3分	4.4		
社会福祉概論	19L	3.8	3.7	3.7	3.7	10.0分	3.7		

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
社会福祉概論	19S	選択	28	86.6	15	53.6%	8	28.6%	5	17.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会福祉概論	19L	選択	7	65.6	1	14.3%	1	14.3%	4	57.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

1 新型コロナの影響で、グループ討議などは実施しなかったが、学生に質問して答えてもらう機会を作った。
 2 オフィスアワーは設定していたが利用はなかった。但し、授業の終了時に、質問や授業内容の感想を伝えに来た学生が2~3名いた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今年度で終了 (今年度の授業は、学生の受講態度が良く、「社会福祉」について伝えることができ、やりがいのある授業ができました。)

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	奈良 望											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
アンケートを見て感じるのは必修か選択によって数値が上下している点である。時事研究は必修で幼児教育の英語は免許必修であるため余り興味を持たずに履修している学生の存在が数字に表れていると思う。これらの学生の興味をひく工夫が更に必要である。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
英語科目は各学期小テストを3回実施しておりその点数が成績の70%になっている。残りの30%は授業態度となっているがその内容を検討してみたい。また、それ以外の科目では発表及びペーパー提出で成績を付けているがそちらも一度考えてみたい。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
今年度、授業内容そのものには大きな変更はなかったが、コロナ禍のため授業進行に予期せぬ変更を求められることがあった。幼児教育の学外実習の長期化・分散化のために例年以上に欠席率が高くなり、学期に3回行う小テストにその影響が出ていたが最終的には単位取得希望者の欠点は免れた。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
英語クラスで使用しているプリントは各専攻の内容に関わる英文の新聞記事等から取っている。例えば幼教ではアメリカ等の幼稚園・保育園などの様子、食物では子供の栄養問題や社会全般の肥満傾向などがテーマのものである。できる限り言語学習的に細かくならないよう心掛け、学生たちが内容を優先して比較文化的な興味と理解が持てるように意識している。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
比較文化	19L	4.3	4.3	4.1	4.4	36.4分	4.3									
英語	19Y	3.8	3.8	3.9	3.8	24.8分	3.7									
英語	20S	3.4	3.8	4.2	3.9	35.5分	3.6									
英語	20L	4.2	4.1	4.4	4.4	36.7分	4.3									
TOEIC特講	20L	4.7	5.0	4.7	4.7	20.0分	4.7									
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
比較文化	19L	必修	29	84.6	5	17.9%	19	67.9%	4	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
英語	19Y	選択 必修	100	78.0	5	5.0%	41	41.0%	41	41.0%	13	13.0%	0	0.0%	0	0.0%
英語	20S	選択 必修	11	81.8	2	18.2%	4	36.4%	5	45.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
英語	20L	選択 必修	11	82.0	2	20.0%	5	50.0%	3	30.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
TOEIC特講	20L	選択	3	82.0	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
授業内容に関する質問は授業直後の教室で行われることが多い。それ以外でオフィスアワー的な接点が必要な場合は、欠席連絡に利用している学内メールで連絡が取れる。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
既存の科目に関しては大きな内容変更を予定していない。今後コロナ禍がどうなるかはっきりしないが、柔軟な授業運用に努力する。次年度に会話をメインにした英語の新科目が一つ始まるので、他の英語科目との違いが明確になるような授業にしたい。																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名		西田 聖子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
病歴記録管理士認定試験全員合格																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
病歴記録管理士認定試験全員合格 病院事務の仕事内容についてわかりやすく伝える 「死亡診断書」「診断書(保険関係)」等記載実習に重点を置く																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
前年度に引き続き、認定試験まで試験対策を行った。実際の試験問題同様〇×式で模擬試験を繰り返し行った。新型コロナウイルス感染症に対する医療現場の現状を伝えることができた。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
病歴記録管理士認定試験全員合格 学生の認定試験に対する授業外学修時間をもう少し増やしていきたい。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル		教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度								
医療事務総合演習	19L	4.3		4.3	4.3	4.3	97.5分	4.3								
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医療事務総合演習	19L	選択	5	85.8	0	0.0%	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
病歴管理士認定試験全員合格 医療機関で働いている現場の旬な情報を、パワーポイント等用いて学生に伝えていきたい。																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名		林 徹									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
多くの受講生はプレゼンテーションまで首尾よくできた。対戦表がレポート課題の作成に役立った。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
レポート課題に関して、個別に具体的に助言を与えた。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
感染症が比較的落ち着いていたため、対戦から、プレゼンテーション、筆記試験の段階まで問題はなかった。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
レポート課題に関して、着手前、着手中、ともにていねいに助言すること。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル		教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度							
経済学	19L	4.4		4.3	4.4		4.3	32.1分	4.4							
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
経済学	19L	選択 必修	29	90.2	16	57.1%	10	35.7%	2	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
ボードゲームを用いて銀行係とプレイヤー両方の役割を担当させるように、メンバーを調整した。講義後に教室内で、レポート課題や筆記試験に関する相談に適宜応じた。プレゼンテーションの練習のためにグループワークに時間を充てた。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
令和2年度と同様かそれ以上に、受講生に楽しんでもらえるようにクラス運営を工夫する。																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名		春野 良三									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>脱落者を出さぬことが目標の一つであったが、今年度も出してしまう残念であった。しかし、今後も脱落者を出さぬよう努力したい。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>① 商工会議所主催簿記検定3級の受験者および合格者を多く出すこと。 ② 時間不足を補うため検定問題などを課題としてだし、演習してもらい、理解してもらおう。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>① 昨年度から検定問題の範囲が変更され、それに対応するため今年度よりそれに対応した教科書を使用した。 ② 商取引における各帳簿の記入法および財務諸表の記入法はプロセクターを使用し説明した。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>① 教科書の利用により、変更点のポイントなど分かりやすく説明できたと思う。 ② 結果として、検定問題を解く時間も増え、検定試験に備えることができた。 ③ アンケートにより、学生も授業に満足していたようでよかったと思う。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
簿記会計学2	20L	4.3	4.1	4.3	4.1	60.0分	4.2									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
簿記会計学2	20L	選択	13	69.5	2	15.4%	3	23.1%	2	15.4%	5	38.5%	0	0.0%	1	7.7%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>特にありません。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>① 簿記の基本をしっかりと理解させ、多くの学生に簿記検定試験を受験させ、合格させるよう努力したい。 ② 講義での理解度を確認するうえで、課題のチェックをしっかりと続けたい。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	宮崎 美保											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行い意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1) グループ活動をより多く取り入れ、さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上させる。 (2) わかりやすい説明・活動内容の見直し、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生への対応を考え活動意欲が沸くようにする。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>(1) 活動目標を各グループであげて、授業の終わりに自己評価するようにさせた。 (2) 活動意欲が沸くような課題を出したり、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生には、動きの分析をしてわかりやすい説明・実技指導をしながら、一緒に課題克服を目指した。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>実技を見せながら説明したり、動きの分析をすることによりスムーズに課題克服ができるようになった。学習記録で目標を決めさせることでより活動意欲高まり、授業終わりに活動の振り返りをし自己反省をすることで次の授業の意欲につながった。グループ活動を増やした結果、学生同士のコミュニケーションも上手にとることができ互いに教え合いながら実技習得をしていく姿も見られ自ら工夫して活動できるようになった。学習記録をチェックすることで学生の困っていることや意見など把握でき、コメントを書くことでより良いアドバイスをすることで学生ともさらにコミュニケーションが取れるようになった。体育講義の授業の後に学習記録を書かせることでしっかりと復習をすることができた。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
生涯スポーツ	20S	4.6	4.7	4.7	4.6	24.3分	4.8									
生涯スポーツ	20L	5.0	5.0	4.9	4.7	18.0分	4.9									
体育講義	20Y	4.6	4.6	4.5	4.6	35.3分	4.6									
体育実技	20Y	4.6	4.5	4.5	4.5	23.0分	4.6									
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生涯スポーツ	20S	選択 必修	22	77.6	1	4.8%	6	28.6%	14	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生涯スポーツ	20L	選択 必修	16	73.4	1	6.3%	4	25.0%	10	62.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
体育講義	20Y	選択 必修	92	77.8	13	14.1%	26	28.3%	37	40.2%	16	17.4%	0	0.0%	0	0.0%
体育実技	20Y	選択 必修	92	80.5	16	17.4%	26	28.3%	50	54.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>コミュニケーションを上手く取れないとの相談にもアドバイスをして授業中も見守りながら声掛けをして楽しく授業ができるように導いた。授業後に実技課題など上手くできないと質問・相談があり、運動の分析の仕方・習得の方法を指導し、一緒にその課題克服を目指した。体育講義は、身近なものや実体験を通してわかりやすく話すことで共感して悩みや疑問に思っていたことなど話に来るようになり、学生が求めている内容を授業に取り入れて向上につながった。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1) 実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。 (2) 学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。 (3) 講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書	氏名	宮崎 洋子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

限られた時間の授業の中でたくさんの内容を取得するために、達成可能な目標を設定して、一つ一つクリアすることで身に付けていくようにしていった。
通常とは違う環境の中、時間的制約のため途中で終えなければならない課題がある場合もあり継続して注視していく必要がある。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

継続することが何よりも大事なこの授業では、前回の学びをよく理解したうえで次回の学びの前に予習をしてプラスできるように進めていく。
このプロセスで理解が不十分なために気力の減少や意欲の低下が起こらないように学生個々に合わせたよりよい方向へと導いていくことが不可欠になってくる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

自分に合ったテンポや調が出来るようになったら、実際に幼児を対象とした現場で対応できるように応用力をつける。練習方法としては、漠然とやり始めるのではなく、まず楽譜を見て譜読みをする。歌詞の大切さを理解するために歌詞読みもしっかりとする。そして、右手でメロディーをさらい、最後に左手を入れてやっていく。左手は楽譜に忠実な伴奏が無理な際は簡易なものやコードを取り入れる。また、無伴奏で歌うことも心ある演奏に結び付けるためのやるべき事の一つと考えます。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学習環境が少し落ち着いた後期は前期よりもどの項目も数値が上がっていて、一応の効果が出たのではないかと推測する。特に、子どもの歌と伴奏法での授業外での学修時間が前期の1.5倍になり学びの力が結果に結び付くきっかけになっていたと考える。
保育と音楽表現での評価の差が大きかった。欠席率とも関係しているように思える。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
保育と音楽表現	19Y	4.7	4.6	4.7	4.6	99.4分	4.5		
子どもの歌と伴奏法	20Y	4.6	4.6	4.6	4.8	144.0分	4.8		

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	19Y	選択	16	76.8	0	0.0%	7	43.8%	7	43.8%	2	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	20Y	必修	5	77.4	0	0.0%	1	20.0%	4	80.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

iPadやスマホでの活用・・・指導可能な時間帯にリズムや曲目について指導した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生によって進路のばらつきがあり、時間的な制約の中でいかに持続可能な目標設定が出来るかということを考えていく必要がある。
一人一人がこの授業に関して良い習慣を身に付け、フィードバックを計りながらやっていけるようにしていきたい。

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名	村川 千佳										
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>1. ピアノの定期試験に向けての指導と並行して、就職後に役立つ内容を取り入れた。 2. 保育の現場で自信をもって指導できるよう、ピアノ・歌唱共に実力の向上を目指した。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
音楽の基礎力の育成と同時に、豊かな音楽的表現についても指導する。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>1. ピアノ・歌唱において、基礎的な技術の向上及び音楽的表現の充実 2. 歌唱について、保育現場にて活かせる発声法・発語・表現の指導</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>全くピアノを習ったことのない入門レベル、入学直前に少しはレッスンを受けた初級レベル、幼い頃から断続的にピアノを習ってきた中級レベル、少数ながら上級レベルと、学生のレベルは多岐に渡るが全員が真剣にレッスンに取り組む姿勢を感じられた。指導者としては、学生個々のレベルを見極め、必要な指導をすることに努め、各人のレベルアップに尽くしたい。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
保育と音楽表現	19Y	4.5	4.8	4.6	4.6	111.8分	4.7									
子どもの歌と伴奏法	20Y	5.0	5.0	5.0	5.0	150.0分	5.0									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	19Y	選択	11	76.5	0	0.0%	3	27.3%	7	63.6%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	20Y	必修	4	81.8	1	25.0%	1	25.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
授業後及び空き時間に熱心に質問に訪れる学生に対しては、極力時間を提供しまた授業を欠席した学生についても、時間を取り補講に努めた。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>1. 音楽基礎力育成のため、理解しやすい指導を。 2. 表現する喜びを体感してもらい、それを現場で活かせるよう指導したい。 3. 実務に活用できる柔軟な音楽力・人間力の養成に努める。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	村田 実智代											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
基本的な楽典の理解 テクニックの向上 弾きたいへの興味関心の強化																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
音楽的素養・理解度・モチベーションが実にも多様化しているため、教材選び・スピードに配慮する コード奏法との関連強化																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
楽典の基礎強化 練習方法の徹底 コードを自ら工夫する																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
指使いを自ら決め、効率的な練習の強化 意欲を配慮した教材、スピードの選択																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
保育と音楽表現	19Y	4.7	4.7	4.7	4.7	130.0分	5.0									
子どもの歌と伴奏法	20Y	3.7	3.6	3.8	4.1	113.1分	3.8									
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	19Y	選択	6	78.5	0	0.0%	2	33.3%	4	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	20Y	必修	13	70.7	0	0.0%	2	15.4%	6	46.2%	5	38.5%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
学生のモチベーションによって、スピードを配慮する																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
練習方法の徹底 弾きたいへの興味関心強化																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	山浦 直子											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>昨年度の授業評価報告書では、それぞれの学生の心の在り方に対応し、楽しみを感じながら成果を上げることを課題として述べていた。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1) 学生一人一人の現状の違いを適確に把握して対応することによって、“やる気”を持続させる。 (2) 弾きながら“歌うこと”の練習の大切さを意識させる。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>(1) 昨年度も述べていたが、内田先生の授業内容と関連性を持たせることの重要性を強く感じているので、更に「コード練習」を強化させる。 (2) 弾くことだけでなく“楽しく歌うこと”が、自主練習の中でも重要であることを認識させる。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>学生による授業評価アンケートの結果から、「学生の学習意欲」更に「全体的な満足度」は高かったことが分かり、とても嬉しく、これからも工夫を重ねていこうと思う。更に、成績向上のためにより一層きめ細やかな指導を徹底させる。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル		教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度						
子どもの歌と伴奏法	20Y	4.8		4.8	5.0		4.8		135.0分	5.0						
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの歌と伴奏法	20Y	必修	5	77.2	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
実施なし																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1) 各学生が安心して自主練習に取り組むことができるように予習よりも“復習”の意味での課題を多く取り入れる。 (2) 喜びを感じ、自信を持つことが出来るように励ましながら楽しい授業を心掛ける。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書					氏名		吉井 学									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>令和2年度・後期では1年生の生化学Iの授業において、学生の意欲を出させることは出来たと推察する。しかし、理解度は思うような結果は導き出せなかった。生化学は生物学と化学の重なり合った科目であるため、高校までの基礎部分の履修だけでは生化学用語の理解が困難のようである。また、食物の機能が栄養機能だけでないため、生化学は三次機能である生体調節機能が重要な部分である。この生体調節機能については用語の記憶も必要であるが、「生体に対する疑問をもつ」ことが最も大事である。この疑問をもつことが1年生には未だ厳しいようである。次年度は代謝学にてもっと自分の体と機能について疑問をもたせ、その疑問に対する詳細な説明を行なう。また、2年生の生化学実験ではアンケート項目のほぼすべてにおいて前年度より上昇している。学生の意欲が上昇し、実験を積極的に行う学生が増加している。実験をとおして体内の変化を捉えられるようになった結果と思われる。学生の中には生化学をもっと勉強したいと訴えるものも増加していた。1年生の時には低かった意欲も大幅に上昇した。今年度もそういう学生がもっと増えるような講義と実験を継続していく。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)																
<p>「生体に対する疑問をもつ」ことが最も大事である。この疑問をもつことを伝えていく。今年度は代謝学にてもっと自分の体と機能について疑問をもたせ、その疑問に対する説明の肉付けを行う。また、2年生の生化学実験では学生の意欲が出て、実験を積極的に行う学生が増加している。実験をとおして体内の変化を捉えられるようになった結果と思われる。学生の中には生化学をもっと勉強したいと訴えるものも増加していた。今年度もそういう学生がもっと増えるような講義と実験を継続していく。生体機能とそれに係わる物質の関連を理解できるような授業を実施する。学生が生体に疑問をもつスタイルのQ&A学習を行う。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>Q&Aを主体とした授業を展開するとともに、メールアドレスを公開して、いつでも質問可能とすることを継続する。 授業の終了後、30分ほど大学内にいて学生からの質問を受けられるようにする。 実験科目においてはレポートに注意点等のアドバイスを記載して返却することを継続する。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>生化学実験は学生の意欲を向上させられた、まずまずの成果であると認識する。今後も実験の楽しさとその結果から導き出される結果の解釈や内容の理論的な事柄を学生自身が理解できるようにする。1年生はやっと言葉が理解できた程度であるから代謝の不思議さを感じてもらえるようにする。学生からの申し出があれば補講を実施する。さらに令和2年度生化学Iの定期本試験での欠点者に対して基礎部分の補習を実施して、後期の生化学実験につながるようにしたい。</p>																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
生化学実験	19S	4.2	4.1	4.3	3.6	110.4分	4.1									
生化学I	20S	3.1	3.2	4.0	2.6	76.4分	3.1									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生化学実験	19S	選択	28	74.3	6	20.7%	6	20.7%	5	17.2%	12	41.4%	0	0.0%	0	0.0%
生化学I	20S	必修	23	67.5	2	7.7%	5	19.2%	0	0.0%	19	73.1%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>メールアドレスを公開して、24時間、いつでも質問を受けるようにしている。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)																
<p>ヒトの代謝が理解できるようにする。食べたものが何に変化していくのかを知ってもらい授業を行う。</p>																

令和 2 年 後 期 授業評価報告書				氏名	吉田 智子											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)																
昨年度の授業評価報告書では、具体的な練習方法を伝え、練習の大切さを意識させることが課題に挙がっていた。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)																
(1) 実技は具体的な練習方法を伝え、練習の大切さを意識させる。(2) レッスンでコミュニケーションをとりながら、練習の大切さを伝える。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)																
(1) ピアノで指が思うように動かない学生は、その原因を見つけて練習方法を伝えることを心がけた。(2) 日々の練習の大切さをレッスンの中で伝えるよう心がけた。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
今年度はコロナ禍の中、マスク着用でのレッスンだったので、歌の指導が思うようにできなかったと反省している。1年生の評価が低いので、もう少し指導法を考える必要があると思った。																
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
保育と音楽表現	19Y	4.8	5.0	5.0	4.8	130.0分	4.8									
子どもの歌と伴奏法	20Y	4.6	4.6	4.6	4.6	145.7分	4.6									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	19Y	選択	6	74.8	0	0.0%	2	33.3%	4	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	20Y	必修	7	73.0	0	0.0%	0	0.0%	4	57.1%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
授業後、質問がある場合はその場で出来る限り対応している。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)																
(1) 現場ですぐに使えるように演奏力、歌唱力を少しでも向上させる練習方法を伝える。(2) 練習の大切さの意識が低い学生への対応を考える。																